

路上から撃て

新宿編 PART III



山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1-25-11 ☎03(3876)7073
郵便振替口座 00140-5-715883



東京都、新宿区は野宿労働者に仕事をよこせ！生活を保障しろ！

6・12、7・12、7・20等夏期新宿闘争資料集

発行 1994.8.14
カンパ込み 500円

「野宿労働者殺人事件」に関する声明

1994. 6. 6

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

殺害され新宿中央公園で5月27日朝発見された及川忠三さん、西新宿1丁目の歩道橋下で31日昼発見された宮沢貞夫さん。この二件の野宿労働者連続殺人事件が公表されるやいなや、新宿西口で野宿している労働者の存在が、再び、マスコミ報道などによりクローズアップされ、社会的な関心をよんでいる。

顔面、頭部をビール瓶、コンクリ片のようなもので、めったうちにする手口、殺害現場から死体を人目につかない所に遺棄している事実、両名共、私たち人民パトロール班のピラをもっていった事実等々から、様々な憶測が飛びかい、警察も外部犯、内部犯両面からの捜査を行っていた。

事情聴取の手を西口通路全域の野宿労働者に伸ばす中、しだいに、野宿労働者同士の「縄張り争い」「グループ間の抗争」と警察は内部犯行説へと傾き、そして、6月3日、「同一グループ内の内輪揉め」であるとして、新宿で野宿する労働者3名を宮沢さん殺人容疑で逮捕し去った。

まだ事件の全容は解明されていない。物証も乏しく、今の段階では自供のみである。報道されているような「ラジカセを盗んだ」「日頃の態度がでかかった」これだけの理由で人が殺せるのか？「主犯格」とされている2人が、逃亡もせずに行犯後も堂々と新宿西口で寝ていたのは何故か？深夜から強い雨が降っていたのに及川さん殺害現場にあれだけの血痕が残っていたのは何故か？「同一グループ」とされているのに、及川さん、宮沢さん共に、「犯人グループ」とは違う場所にいつも寝ていたのは何故か？等々。多くの疑問が残っている。

が、マスコミ各社は警察発表をそのまま公表し、なんら野宿労働者の実態をつかめていない福祉事務所や「文化人」にコメントをさせ、事態の本質を見ずに表層だけを拾った報道を繰り返している。

私たちはこの報道姿勢に強い危惧の念を抱かざるを得ない。野宿労働者に対し差別的偏見をもっている多数の人々には、これら報道は増幅され『野宿労働者は「日頃の態度がでかい」ことだけで殺人を犯すような怖い存在』という予断が形成されてくるからだ。事実、悪質な三流スポーツ新聞には、差別的偏見を煽りたてる目的で書かれたとしか思えない記事が堂々と掲載されている。「あっちこっちもボロをまとった中高年のホームレスばかり」

「鼻を突くほどに悪臭が立ち込めていた」「これほどすさんでいれば、また第3、第4のケンカ殺人が起こること間違いない」と断定した上で、東京都は、彼等の人権など考慮せず、野宿労働者を追い出せと結論づけている。事件の解明を独自にした上で、殺人にまで至った背景、責任を論じるのではなく、警察が描いたシナリオを信じ、その構図の中に野宿労働者をおしなべて当てはめる。そこから出てくる結論は「野宿労働者は潜在的犯罪者」「新宿の街は野宿労働者のせいで犯罪の巢窟となっている」「一般市民にも危害が加えられるかも知れない」「早く奴等を追い出せ」となるのは必至である。

2月17日、野宿労働者は働く意欲のない「浮浪者」だと東京都は規定し、彼等を叩き出し、一時的に収容するという愚挙を行なった。が、その効果は何もなく、逆に野宿労働者の反撃が開始されると、今度は、殺人事件を口実に、野宿労働者は「平気で犯罪を犯す」なるキャンペーンを張り、野宿労働者のたたかいをつぶすと同時に、再度の叩き出しの機会を狙っている。

新宿からの野宿労働者一掃の世論づくりに、マスコミを利用せんとしているのが、東京都である。野宿労働者のたたかいをつぶし、彼等を叩き出す口実を是が非でも作りたい東京都にとって野宿労働者を冤罪に追い込むことなど平気の沙汰である。今回の事件においても、その危惧は依然残っている。

仮に、今回逮捕された3人の野宿労働者が事件に関与していたにせよ、彼等をそこまで追い込み、「荒廃」させたのは一体誰か？野宿労働者を叩き出すことばかりに明け暮れ、自らの失政の元、生み出した多数の野宿労働者＝失職した日雇労働者群に対して、何等まともな失業対策や福祉対策を行なわず、放置し続けている責任は一体誰が取るのか？都内の野宿労働者の数は急増している。不況の中、大量の労働者が資本から使い捨てられ、飯場などから排出されている。日雇労働者は社会保険制度からも排除され無権利状態におかれて来た。そうするのが資本の利益であり、何等それを取り締まらなかつたのが、ゼネコンと行政の癒着である。

今回の事件の背景には叩き出しを強行している東京都の影がつきまわっている。私たちは、この事件を口実にした叩き出しの強化を許さず、野宿労働者＝「犯罪者」なるキャンペーンを行なおうとしている殺人行政＝東京都に対し更なる反撃のたたかいを新宿の野宿労働者と共に進めていく。そして、今回の事件に関しては、事実の解明を自分たちの手で行ない、その責任を徹底的に追及すると同時に、野宿労働者間の問題に関しては、誰の手も借りず自ら自身の手で解決するだろう。

殺人事件を口実とした叩きだしを許さん！
今こそおれ達の団結を深めよう

六・一二新宿アオカン者大団結集会

台詞
基調案

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
渋谷・原宿 生命と権利をかちとる会

一、はじめに

新宿で生き抜くすべての仲間たち！

おれ達野宿している仲間の中から生み出してしまった「殺人事件」。新聞なんかで報道されていることをここでは繰り返さなくていい。まだ「事件」そのものが「解決」はしていない。殺したとされる仲間が何故このような悲劇を引き起こしたのか？おれ達はまだその全貌にたどりついていないから。仲間の中には、いろんな噂がたっている。けど、根拠のない噂はやめよう。具体的なおれ達の力でも解いていくしかない。確かなのは、新宿に西口でアオカンしていた2人の仲間が命を断たれ、3人の仲間がいま、殺人容疑で警察にとらわれている事実だけだ。

どういふ事情があれ、仲間が仲間の手で殺された、この事実からおれ達はなにをつかみとっていくのか？「殺した方も殺された方もいなくなつてせいせいした」そんな声で仲間の中から聞こえる。だけど、そんな単純なことじゃないよ。一人、一人の命はそんな軽いものじゃないし、おれ達が生き抜くという事はそんな甘いものでもない。おれ達は「事件」をきつかけに、おれ達の仲間同士のつながり方、堅い言葉でいえば団結の質というものをもう一度考えたい。おれ達は「事件」をきつかけに、おれ達の仲間同士のつながり方、堅い言葉でいえば団結の質というものをもう一度考えたい。

おれ達は「事件」をきつかけに、おれ達の仲間同士のつながり方、堅い言葉でいえば団結の質というものをもう一度考えたい。おれ達は「事件」をきつかけに、おれ達の仲間同士のつながり方、堅い言葉でいえば団結の質というものをもう一度考えたい。

おれ達は「事件」をきつかけに、おれ達の仲間同士のつながり方、堅い言葉でいえば団結の質というものをもう一度考えたい。おれ達は「事件」をきつかけに、おれ達の仲間同士のつながり方、堅い言葉でいえば団結の質というものをもう一度考えたい。

おれ達は「事件」をきつかけに、おれ達の仲間同士のつながり方、堅い言葉でいえば団結の質というものをもう一度考えたい。おれ達は「事件」をきつかけに、おれ達の仲間同士のつながり方、堅い言葉でいえば団結の質というものをもう一度考えたい。

以下、山谷人パト班、「いのけん」で討論してきた内容に基づき、基調案を提起したい。

二、「事件」の背景とおれ達の団結の質

まず「事件」そのものより、「事件」が起きた背景を一緒に考えていかなければならないと思う。何故、おれ達の内部でこんな痛ましい「事件」が起こってしまったのか？そして、殺人までにならないとしても、モガキや暴力、酒、アパンのような問題がおれ達の内部に何故存在しているのか？

確かに、同じ野宿をしている仲間にもいろんな仲間がいる。一人、一人、いろんな事情で野宿に追い込まれたから。仕事の問題、体の問題、家族の問題、人間関係の問題。差別社会、競争社会の問題。いろんな事情でおれ達は新宿の街に流れて来た。そして、一人、一人、かかえている問題は微妙に違う。生まれも、おいたちも違う仲間なのだから、それぞれ個々の気質も性格も違う。

今回、殺された仲間、殺したとされている仲間も、それぞれ違った生い立ちと、人生をもって、いろんな事情で野宿に追い込まれた。この新宿の街に到着した。だが、彼等が「モガキ」を特許人間だったのだから。確かにそれぞれ異なる仲間だった。けれど、酒を飲んで暮れる仲間も、モガキをする仲間も、仕切りたがる仲間も、おれ達の世界では、そんなにもめずらしいタイプの人間じゃない。

そういう事件がおこると、世論は、すべて、個人のせいにしておけば、個人のせいにしておけば、自分とのかかわりも、社会とのかかわりも、関係なくなるから。おれ達が野宿せざるを得なくなった事情も世間では個人のせいにかかわり、のと同じように。

だが、個人のせいにしていけばすべてが解決するのだろうか？たまたま、彼等が、人を殺すような人間だったと思えば、たまたま、彼等が殺されるような人間だったと思えば、それは、柔かもしれない。でも、それじゃ、なんにも隠さないと、同じような悲劇は繰り返されると思う。

殺したとされる仲間も、殺された仲間も、別に特殊な人間じゃなく、おれ達と同じ新宿の街で野宿をしいられていた仲間だった。個々の違いはあったとしても、新宿で野宿をするなかで、おれ達が不断におかれていく現実には共通なものだ。仕事がない。金が足りない。食料がない。体が日々、蝕まれて行く。荷物を安心して預ける場所すらない。いつくるか分からない。おれ達が、自分一人がどうやって生きていくかという事を考えさせられている。物を見れば、死んでしまふ。一つのオニギリのとりあいで、喧嘩になつても不思議じゃない。喧嘩になつても不思議じゃない。おれ達はいつもこういう風にさせられている。仲間全体のことより、個々人のことに目がむくようにさせられている。

連休明けから、新しく新宿に流れてくる仲間が増えている。新参ものが増えたから、新宿が荒れはじめたと思つて、仲間も多いと思う。でも、新しく新宿にきた仲間が悪いのか？それは違う。全国どこへ行っても仕事がない。どこの飯場でも高給の仲間が首を切られて、仕事をみつけない。野宿しながら歩かなければならぬ。前からの仲間も、新しく新宿にきた仲間も、同じような境遇に追い込まれている。おれ達は平気で使いつける。そして、仕事の保障もせず、失業対策もせず、福祉すら野宿している仲間を切り捨てる。資本家や国や東京都や新宿区がおれ達をこのように追い込んでしまっているのだ。いままでこの国の基礎を作ってきたおれ達を、いらなくなつたからかといつて、ゴミのように「処分」しようとしている。東京都、環境整備だとかで、おれ達を追い払えば、それでなんとかなると考えている東京都。

奴等は、おれ達を、一人一人バラバラにさせ、野宿している者同士をいがみあわせ、自分らの責任をごまかそうとしている。奴等は、おれ達の心までも支配しようとしている。いがみあわせ、蹴たおしあわせ、おれ達がつくつてきた平等な、仲間が仲間のことを気遣い生きて行く、そんな関係をぶち壊し、ヤクザ的な分子分の関係をつくらせ、おれ達が野宿せざるを得ない原因にたいして、やりかえしていくことを阻もうとしている。仲間を思いやる心までも破壊しようとして、おれ達の心を分断をはかろうとする。東京都は叩きだしをやる。撤去を抜き打ちでやる。福祉にしても人によって差をつけて、おれ達の分断をはかろうとする。東京都のやり方は卑劣だ。そこには、おれ達の暴力の問題や、モガキの問題が出てくる。心が触まれるなかで、酒の問題や、アンパンの問題が出てくる。

おれ達は考える。今回の事件は、おれ達が野宿せざるを得ない現実、その厳しさと、それを放置し、叩き出しを繰り返して、おれ達の心までも触んでいった東京都の支配の中で引き起こされた事件なのだ。自分、自分らのグループの利益しか考えなかった。そういう風にさせられてたんだ。彼等は、仲間同士平等の関係を求めるのではなく、金社や、学校、あるいはヤクザ社会のなかにあるタテの関係を壊さうとした。自分らだけの利益だけを求めるのなら、金社や、学校、あるいはヤクザ社会の仲間を敵としてでも自分が生き残る。彼等の意識はそこまで、触まれていたのだと思ふ。「邪魔者は消せ」

「仲間を敵としてでも自分が生き残る」彼等の意識はそこまで、触まれていたのだと思ふ。でも、彼等もまた、野宿せざるを得ない現実を叩きこまれた、被害者でもあることを忘れてはならないと思ふ。彼等に捕らわれても、彼等が自分達がやった過ちを反省し、仲間と真につなげていこうとするならば、おれ達は暖かい手を差し延べよう。いや、おれ達の団結はこうだといふ事を、貸付かせるような、たかいかをおれ達はしていかなければならぬと思ふ。いやはや、おれ等何故なら、彼等をそこまで追い込ませてしまったのは、おれ達の仲間とのつながりあいが、まだまだ、未熟だったからだ。こんなことが起こる前に、彼等に気付いてもらいたかった。その機会はいくらでもあつたからこそ、おれ達は悔やまれる。

彼等をそこまで追い込んだ責任は、おれ達にもある。団結という言葉だけじゃなく、たかいかの時の団結だけじゃなく、日常的に仲間が仲間を支え、すべての仲間と手を取り合い、つなげて、おれ達をアオカンへ追い込んでいく。立ち向かい、仲間の命を仲間の力でまもり抜き、生き抜いていく、そういう仲間との関係が作り得なかつた結果でもある。仲間がいがみあう関係じゃなく、蹴たおしあう関係じゃなく、本心に敵しい現実の中でも、仲間をいたわりあい、気遣いあい、一人の仲間の問題を皆で考え、皆で解決していく。虐げられてきたおれ達だからこそ、人の痛みは一層よく知っている。だから、ともに手を取りあい、いろいろな人とも結びつき、仲間の力で、おれ達をここまで追い込んでくる敵にやり返すことが出来るんだし、それを2・17以降、おれ達はやってきた。これが、おれ達の団結の在り方だ。仲間の問題の解決の仕方だ。

二度と、同じ事件を仲間内から引き起こさせないために、この集會に集まつた仲間、一人、一人が、事件のことを考え、仲間との関係の作り方を考え、どうやったら、おれ達が、ここで仲間とともに生き抜いていけるのか、どうやったらおれ達の中にあるいろいろな問題を解決できるのか、どうやったら仲間全体が結びつき、もっとも大きな力になるのかを真剣に考え合おう。そして、東京都の新たな叩きだしに、今まで以上の仲間の団結で反撃していこう。

三、「事件」を口実にした東京都の叩き出しをおれ達は許さない。

東京都は、この事件を口実としながら、おれ達が培って来た団結を破壊し、新たな叩きだしをもって、おれ達を、チリチリにしようとする。グループ内のリンチ殺人事件」と発表し、また、「山谷などから（支援、過激派）（「いのけん」も含むと予測される）入り込み、勢力を拡大しようとしている。そうしたなかで、組織的競争が起きた」などと、おれ達も含むと説明している。おれ達は、この事件にかこつけて、任意同行と称しながら、新宿署に多くの仲間を連行し、顔写真を撮り、事件とは関係のない、生い立ちまでも事情聴取に名をかりて行なっている。また、「浮浪者マップ」を作っているなど、奴等は公言し、すでに西口だけで六百名もの写真を撮っている。マスコミの差別的なキャンペーンもすでに進められている。その際たるものが、東京都スポーツだ。「野宿労働者は人殺しなど平気でやる」「ほっておいたら大変なことになる」「人権などかまわず、奴等を早く追い出せ」と平然と主張しているんだ。まったく許さない。

この「事件」は、支援と仲間との分断、仲間同士の分断、新たな叩きだし（「実態調査」）を意図しながら進行している。「事件」そのものの解決より、新宿での仲間同士のたかいかをどう潰すかを、警察サイドは、真剣に考え始めた。これは、東京都の意でもある。そして、7日の夜には、「環境浄化委員会」なる東京都、新宿区、商店街合同の追いつたパトロールが警察の先導のもとに再開されること、明かされた。東京都の追いつたパトロールの追いつた環境をこの「事件」を口実に作りだそうとしていることは、明白である。

また、おれ達に敵対する「下村」も事件にかこつけ、マスコミを引き連れて、動き回り、なんと「逮捕された仲間は争闘団員だ」なるデマを流しながら、おれ達の運動を破壊しようとしている。奴等は、この事件を利用して「ホームレスバザー」なるものを行ない、私腹を肥やそうとたくらんでいる。おれ達を食い物にしようとしているんだ。「ホームレスバザー」をきっかけに、おれ達の団結を破壊しよう、おれ達のたかいかをぶつつぶそうと思つている輩どもが、一挙に動き始めた。

おれ達にとつてみれば、試験だ。この間、おれ達がつくつてきた団結の力を再度、整えなおし、一挙におしにかけて叩き出しの攻撃をひとつひとつぶちやぶつていかなければならぬ。おれ達の内部矛盾を乗り越えていく道は、このたかいかの中でしか有り得ない。おれ達が生き抜くことを、奴等は阻もうとしているからだ。

四、2・17に反撃した力で、新たな叩き出しを向かえ撃とう！

おれ達は、東京都が全力を賭して組織的、計画的にかけてきた、2・17に仲間の力をあわせて、反撃してきた。新宿

の仲間が怒りの声を始めて挙げたこの間のたたかいは、東京都の度肝を抜き、そして、全国の野宿している仲間、希望を与えてきた。山谷でも、上野でも、新宿の仲間のたたかいは呼び起こされ、城北福祉センターを一日、占拠する実力のたたかいが、野宿労働者先頭にたたかわれた。そして、台東福祉を攻めるたたかいが、山谷、上野の野宿している仲間を軸に巻き起こっている。おれ達のたたかいは、おれ達が思っている以上に、敵を震撼させ、社会的に反響をよび、全国の仲間の希望の光になっていく。おれ達が力をあわせて、たたかってきたから、おれ達が仲間を気遣いながら、どんな仲間とも手を取り合っている。おれ達が力をあわせて、たたかってきたから、おれ達の利益のために、あがったから。これこそが、おれ達の財産だ。

五月一日のメーデー集会以降も、連日の撤去に反対し、山谷の仲間と都庁に押しかけ、建設局に押しかけ、荷物を奪いかえし、また、新宿福祉へ押しかけ、おれ達を切り捨てて来た責任を追及しながら、高齢の仲間、体の弱った仲間を支えあいながら、生活保護を取るたたかいをやってきた。確かに限界があった。課題も多く残っている。だけど、毎週、金曜日に七十名以上の仲間が結集しながら、たたかってきたことは、おれ達の力だ。この力こそを、今後の取り組みの中で発展させなければならぬと思う。

また、木曜日のパトロール、合同会議での仲間との話し合い、「共同炊き出し」「共同人パト」を取り組むなかで、仲間の横のつながりを深め、仲間が仲間の問題を自分らで解決していこうという仲間の団結の力を培ってきた。一人一人がマイクをもち、ピラをまきながら、まだまだ十分じゃないけれど、おれ達は力を蓄えてきたと思う。

おれ達がおれ達の力でやってきたたたかいを再度、全体で確認しあいながら、課題を克服し、もっと、もっと大きな団結を作っていく！

五、今後のたたかい。

＊新たな一切の叩きだしを許さない。情報を集め、仲間の力を合わせて、撃ち破って行こう！

＊火、木、金 行動を軸に、仲間のつながりを深め、論議しあい、団結をより深く作り出していこう。

＊差別キャンペーンを許さない。東京スポーツを糾弾しよう。

＊「都区検討会」再開、「実態調査」の強行を阻止しよう。

＊七・一二、統一行動を成功させよう。

新宿野宿労働者の大団結を！



抗議文

新宿区公園管理課課長 殿

私たち、山谷労働者福祉会館・人民パトロール班と、渋谷・原宿生命と権利をかちとる会は、さる二月十七日、新宿西口地下道（4号街路）で行なわれた東京都、新宿区合同による野宿労働者への強権的な叩き出しと荷物の撤去―強奪、―西口環境整備工事―なる居住地へのフェンス張り工事、および、「街頭相談」における大田寮への一時しのぎの収容、これら野宿労働者の人権を無視した一連の諸「事業」に抗議し、その後も連日のようにかけられている東京都、及び、新宿区の野宿労働者叩き出しに、新宿で野宿している労働者と共に反対している団体である。

これらの諸「事業」は、歴史的な大不況の中、職を失ない、または、体をこわし職につけず、新宿で野宿を強いられている労働者（多くは日雇いの）たちを一方的に新宿から追い出し、厳しいながらも助けあいながら培って来た労働者間のつながりを断ち、一人一人、バラバラにし、路上でまたは、病院で、社会問題にもならない孤独な野たれ死にを強いるためにのみ、行なわれた「事業」である。都庁に通じる通路から、「国際都市東京」のイメージを「損なう」彼等野宿労働者を叩き出し、目に見える失業実態から都民の目をそらすことで、本来、東京都、新宿区がやらねばならない「労働政策（失業対策）」や「福祉政策」に対する都民の当然の要求を事前に踏みつぶすことを狙った「事業」でもある。東京都、新宿区が掲げた「人命保護」なる美名がいかにか嘘八百であったかは、大田寮閉鎖（三月十五日）以降、野宿労働者への「人命保護政策」を一切もたない東京都、新宿区の無施策ぶりを見ても明らかである。

無施策であるだけなら、まだ救いようがある。が、東京都、新宿区は、この無施策ぶりを隠蔽するため、新宿からの野宿労働者の締め出し、叩き出しを、「緊急越冬対策事業」終了後もあの手この手を使いながら、実に陰湿な形で進行させている。

今回、貴新宿区公園課が管理責任を負う、新宿中央公園が行なった、水道取水制限もその一環の「事業」であると私たちは認識している。西部公園管理事務所がいかにか、詭弁を弄しようとも、客観的には、中央公園を利用している（せざるを得ない）野宿労働者の生活領域を狭め、彼等を締め出そうという意図に基づいておこわれた「事業」であると言わざるを得ない。

「そもそも公園とは、どのように利用されるべきか」なるそもそも論議など、私たちは聞きたくない。現実に中央公園がどのように利用されているのかを、無視した論議など、机上の御託並べにしかならないからだ。

貴課がどういう主観的意図で今回の取水制限をやったかに関わらず、今回の取水制限に

よって多くの野宿労働者に困窮を強いている事実を目をつぶることなど出来はしない筈である。

彼等が中央公園で休息を取る、飲み水を確保する。体を洗う。洗濯をする。これは、まぎれもない事実だ。生き死にの現実を抱えながら、彼等が生きるための方途として選んだ行為である。彼等は言っている。「不潔な野宿者より、清潔な野宿者の方が、よほど人様に迷惑をかけない。だから、中央公園で体を洗い、洗濯もするんだ」と。彼等がこの街でこのように必死で生きていこうとする姿勢に、何故貴課は着目しないのか？学校の校則よろしく、あれも駄目だ。これも駄目だと、下らない規則がらめにするのか？何故、本来意図する禁止行為を直接あげだまにせず、公園利用者に理解を求めようともせず、節水なる名目をもって取水制限を実施したのか？実施した後に、水道料金が何万円かかって、うんたらかいたらと訳の分からない言い訳をするのか？野宿労働者と「共存」すべきと本当に思っているのなら、彼等も権利をもった人間である、当然、理解を求めるところを行政の立場として最低限するのが筋であろう。住民からの苦情、陳情というなら、野宿労働者も住民であり、公園利用者である。お互いの言い分を聞いてから実施するのが筋であろう。こんな当然なこともやらずに、一方的に生活水として現実に活用されている水道を取水制限する。職を奪われ、食い物も奪われ、衣類も奪われた野宿労働者にせめて水すらも使わせないのか？こんな姿勢の区に、人道だの、人権だのを言う権利があるのか？

野宿労働者の問題は公園管理課の問題ではないと、自らの責任を逃れようとする、お決まりのお役所の答弁など聞きたくはない。公園管理の立場から野宿労働者の問題など解決できはしないと認識しているのなら、叩きだしの先兵になるより、なにもしない方が、より賢明である。このことによって、物理的に水が使えない以上に彼等にどういふ精神的な被害を与えるのかよく考えた方がいい。そんなに新宿区は野宿労働者を「荒廃」させたいのか？着る物も洗濯が出来ず、シラミだらけの野宿労働者をそんなに作りたいのか？もし、そうであるなら、今後おこる野宿労働者の問題全てに責任を取るといふことか？責任も取れないなら、即刻このような取水制限などやめるべきである。もし、やめる意思がないのなら、私たちは、私たちの流儀で貴課に全ての責任を取ってもらうつもりだ。

私たちの要求は一つだけである。中央公園の取水制限を即刻やめ、現状に復帰せよ。真摯ある回答を求めたい。

一九九四年六月十七日

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

台東区日本堤一―二五―十一

〇三(三八七六)七〇七三

渋谷・原宿生命と権利をかちとる会

新宿区高田馬場一―二五―五―一Dながれや

〇三(五二七三)五〇六五

要 求 書

新宿区福祉事務所長 殿

私たち、山谷労働者福祉会館・人民パトロール班と、渋谷・原宿生命と権利をかちとる会は、さる二月十七日、新宿西口地下道（4号街路）で行なわれた東京都、新宿区合同による野宿労働者への強権的な叩き出しと荷物の撤去―強奪、「西口環境整備工事」なる居住地へのフェンス張り工事、および、「街頭相談」における大田寮への一時しのぎの収容、これら野宿労働者の人権を無視した一連の諸「事業」に抗議し、その後も連日のようにかけられている東京都、及び、新宿区の野宿労働者叩き出しに、新宿で野宿している労働者と共に反対している団体である。

また、新宿闘う仲間の会は、新宿で今現に野宿を強いられている労働者が軸になり、自らの生きる権利を求めて闘っていくため新たに発足された野宿労働者の団体である。

私たち三団体は、歴史的な大不況の中、職を失ない、または、体をこわし職につけず、新宿で野宿を強いられている六百名以上の労働者（多くは日雇いの）たちを一方的に新宿から追い出し、厳しいながらも助けあいながら培って来た労働者間のつながりを断ち、一人一人、バラバラにし、路上でまたは、病院で、社会問題にもならない孤独な野たれ死にを強いるためにのみ、行なわれた二月十七日の諸「事業」に対して強く抗議し、この諸「事業」に荷担した関係部局に対して追及行動を行なってきた。都庁に通じる通路から、「国際都市東京」のイメージを「損なう」とされる野宿労働者を叩き出し、目に見える失業実態から都民の目をそらすことで、本来、東京都、新宿区がやらねばならない「労働政策（失業対策）」や「福祉政策」をサポートし、野宿労働者を「ゴミ」あつかいにし、路頭に迷わせるこの一連の諸「事業」の非道さは、社会的に非難されてきた通りである。

が、貴福祉事務所を筆頭に、関係部局は自らの犯罪的行為に対しては、なんら反省するどころか、居直り続け、二月十七日以降も、同様の叩き出し政策を推進してきた。

貴福祉事務所においては、社会的に非難されている「アオカン通院」を未だ平然と行ない、正当な権利である生活保護をブツ切りにしか適用せず、その結果多くの病を抱えた労働者を路上に放置し、病気を直すどころか、逆に彼・彼女等の生命を縮めている。また、職員による差別的な対応も依然と改められず、正当な権利を行使しうる機会すら奪っている。そればかりか、私たちがこの間要求しているフロ券、下着類の放出など緊急援護の実施に関しても、一向に応えようとしていない。

私たちは、貴福祉事務所の態度が二月十七日以降、変わったとはとうてい認識出来ないという立場に立つ。

このような中、貴福祉事務所が軸になり、二月十七日以降初めての「街頭相談」を本日举行なう予定であると聞く。

二月十七日の事態を正式に謝罪し、その上で、我々の正当な権利を認め、要保護者をすべからく保護する「街頭相談」であるなら、私たちもあえて反対はしない。(行政からする権利意識の啓蒙のサボタージュと窓口での差別的対応による不信感が主要な原因であるが) 福祉事務所にたどりつけない野宿労働者が多く存在している現実の中、福祉自らが彼・彼女等の所に出向き、相談を行ない、保護を実施することはむしろ大いに歓迎すべきことであり、私たちも野宿労働者の生命を守るといふ観点から積極的に協力したい。

が、二月十七日の事態を居直り、正式な謝罪もなく、かつ当事者達になんの連絡もなく、突如闇打ち的に行なわれる「街頭相談」とは、一体、何か？

二月十七日に貴福祉事務所が「街頭相談」で行なったことを私たちは決して忘れはしない。

私たちは、再び、貴福祉事務所が、東京都に荷担し、野宿労働者の叩き出しを繰り返す事態を想起する。叩き出しのための「都区検討会」に性懲りもなく参加している事からも、企画審議室調査部が行なっている「路上生活者実態調査」のために、貴福祉事務所が掌握している野宿労働者のプライバシーを売り渡す危惧すらある。警察官が六名も付き添って行なわれるパトロールが、叩き出しのパトロールにならない保障はどこにあるのか？ 東京都や、警察のいいなりになる「街頭相談」、叩き出しのための「街頭相談」なら、即刻中止すべきである。

貴福祉事務所は、まずは、当事者の声を聞くべきである。行政サービスは当事者のために行なわれる。当事者のためではない行政サービスなら、即刻中止にするのが当たり前である。福祉は本来申請主義であるからして、わざわざ表に出てこなくても、非難される事もないではないか。このような疑惑がもたれている「街頭相談」を当事者の声を無視して強行するという事は、当事者と貴福祉事務所の関係すら打ち破るものである。「街頭相談」の裏には「環境浄化対策会議」や東京都の影がちらついていることを自らが証明しているようなものである。

私たちは、要求する。二月十七日の事態に関する正式な謝罪がないまま行なわれようとする「街頭相談」は、認められない。即刻中止せよ。

もし、叩き出しのための「街頭相談」ではないと、謝罪もせず強弁し、当事者の要求も聞かず、人道的立場から「街頭相談」をやるのだと言うのなら、それなら、是非、当たり前の事をやってもらおう。私たちもあえて妨害するようなことはせず、申請者を大挙引き連れてこよう。何人こようとカップウドンでごまかすなよ。

「生活困窮者」すべてに生活保護を適用してもらおう。「街頭相談」は炊き出しではないことをしかと見せてもらおう。

今までと同じようなことしかやれないのなら、「街頭相談」は無意味である。無意味で

ないことを証明したいのなら、私たちの前で、私たちが納得させるような新たなこと（当たり前なこと）をしてみればよい。

もし、貴福祉事務所が「街頭相談」を強行するのなら、以下の最低限の事項を私たちは要求し、現場で監視する。

- 一、六十五歳以上の仲間に対しては、病気のあるなしにかかわらず、その場で、即、生活保護を適用しろ。二月十七日の線引きを最低限守れ。老人病院への強制入院をさせるな。入院する必要がない仲間には、本人の希望に即し、施設、簡易宿泊所、いずれかでの居宅保護を行なえ。
- 二、病気を訴える仲間には、一人一人、丁寧な診察を行なえ。入院が必要な仲間には、無条件で入院措置を行なえ。通院が必要な仲間に対しては、居宅場所を即、保障し、本人が希望する医療機関にかけろ。アオカン通院をさせるな。
- 三、相談は親切丁寧に行なえ。職員の差別的対応、横柄な態度を止めさせろ。相談者の相談を良く聞き、要保護状態であるか否かを慎重に判断せよ。
- 四、食事が必要な仲間には、栄養価（必要カロリー）を吟味した食事を提供しろ。衣類が必要な仲間には無条件で衣類を提供しろ、風呂に入りたい仲間には風呂券を無条件に提供しろ。
- 五、警官同行のパトロールをするな。威圧的な態度を止めろ。ダンボールをのぞき込むな。人権侵害をするな。追い出しをするな。人数チェックをするな。
- 六、街頭相談資料、個人のプライバシーを東京都、警察に提出するな。「実態調査」に協力するな。
- 七、出張相談所に警官を配備するな。

一九九四年七月二十日

以上。

新宿闘う仲間の会

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

台東区日本堤一―二五―十一

〇三（三八七六）七〇七三

渋谷・原宿生命と権利をかちとる会

新宿区高田馬場一―二五―五―一Dながれや

〇三（五二七三）五〇六五

「新宿野宿労働者の生活・就労保障を求め 連絡会議」を結成します。

バブル崩壊後の空前の大不況の中、建設産業の末端で働き続けた日雇い労働者を筆頭に、中小企業などで働いて来た未組織、下層の労働者が真っ先に合理化の対象になり、絶対的窮乏層へと落とし込まれ、また資本、行政の救済措置の不備など社会的資源の不足とが重なりあい、失職した彼、彼女等は、都内各地の路上で野宿生活を余儀なくされています。とりわけ、新宿においては、駅周辺だけで六百名、新宿区内だけでおよそ千名もの野宿労働者が存在し、東京東部の山谷圏に匹敵する都内最大の野宿労働者を抱えています。その半数以上が高田馬場寄せ場や、新宿駅手配など駅ターミナル、公園手配で就業をしていた日雇い労働者です。

野宿労働者の問題は、資本による「安価な（日雇い・下層）労働力の使い捨てと再生産」を本質とし、労働・福祉行政が、「安価な労働力の（国策）動員と切り捨て（野たれ死に＝棄民化）」を調整しながら貫徹していく問題としてあります。が、従来の国、都の（日雇い・下層の）労働力政策は今、完全に破綻しています。野宿している労働者を何等かの形で「養う」（ストックする）展望も根拠もない中、手をこまねいている内に、日雇い労働者、下層労働者の矛盾が複合的に重なりあいながら、都市のどまん中で、野宿する無権利状態の労働者が爆発的に増え続け、失業実態と国、都の無施策を明確に晒しだしながら、「社会問題」へと至るまでになつてしまつたのです。2月17日の東京都、新宿区合同による「一斉叩きだし作戦」は、この施策の破産を隠蔽するために行なわれた、野宿労働者の「大量処分」に向けた攻撃でした。

私たちは、この2月17日以降、半年間、連日にわたり、新宿で野宿する労働者と共に、東京都、新宿区の叩きだしの責任を追及する大衆行動を展開しながら、福祉行政に対して、生活保障の全面適用を求めて、運動を行なってきました。そして、その渦中で新宿で生き抜く当該の野宿労働者の団体である「新宿闘う仲間の会」が結成され、区・公園課の取水制限を大衆団交で撤廃させたことや、7・12一日行動の成功など、運動的な飛躍が勝ち取られています。

が、東京都、新宿区は、叩きだしの責任を何等取るうとしないばかりか、新たな叩きだしを画策するために「都区検討会」を秘密裏に再開し、「都市の3大悪」の一つと野宿労働者の問題を位置付け「実態調査」を開始しています。

私たちは、新たな叩きだしを阻止すべく、都区の責任を更に追及しながら、今冬期に具体的な施策を打ち下ろさんとしている「都区検討会」の「対策」を打ち破り、新宿で野宿している仲間の生活・就労権を勝ち取っていくために、今秋期、新宿区、東京都に対する行政闘争を本格的に開始していくことを決意しました。とりわけ、労働行政に対するたたかいは、必須の課題です。東京都は野宿労働者を「働く意欲のない」「路上生活者」「浮浪者」と規定し、労働問題を隠蔽したまま、「大量処分」を行なおうとしているからです。その一方で、労働省、都・労働経済局は雇用保険法の改悪など、日雇労働保険者証（白手帳）による日雇労働者の管理を推し進めようとしているのです。働ける者は徹底的に管理し、働けなくなつた者は、「浮浪者」として「処分」しようという攻撃です。

これら、野宿労働者にかける攻撃に反撃し、野宿労働者の生きる権利を求め、新宿野宿労働者と共にたたかう、新宿現地の共闘団体である「連絡会」を私たちは結成します。新宿野宿労働者のたたかいに共感を寄せる全てのみなさんが、「連絡会」に結集されんことを訴えます。

◆呼びかけ団体

新宿 闘う 仲間 の 会
山谷労働者福祉会館、
山谷労働者福祉会館・人パト班
人民パトロール班
渋谷・原宿生人命と権利をかちとる会

◆連絡先

台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館・人パト班 笠井
031387617073

◆結成会議

8月10日（水）午後7時から
日本キリスト教会館
（地下鉄東西線早稲田駅徒歩10分）

あす6日^{金曜日}、新宿福祉行動へ

ぐあいのある仲間をささへ、みんなであつこう!

あす9時半「目の像」(西口地下)のまえにあつこう!

「ありがた迷惑」のゴールデンウィークもきょうでおわり。この間、福祉にかかりたくてもかかれなかった仲間は、あす、みんなであつこう!

新宿の仲間たち、なかでも、最近どうも調子がヘンだ、新宿福祉へ相談にいつても相手にされていない、そんな仲間たち、あすのあさ、みんなであつこうと、新宿福祉へかけあいにしよう。そしてあたりまえの生活保護を要求してやろう! アオカンしながら病院へ通院なんてまっぴらゴメンだ。ちゃんとドヤを、あるいは施設を紹介させよう!

とくに、この間ゴールドデュークのため、福祉にかかりたくてもかかれなかった仲間は、あすぜひ、おれたちといっしょに相談にいきましょう。あす金曜日のうちに相談にいかないと、また土曜、日曜がはいるから、ほとんど病院で診てもらうのは来週の月曜日になっちゃうぞ。

「おれは元気だ」という仲間

も、ぐあいのわるい仲間をささへ、新宿福祉までいこう! 応援部隊が多ければ、連中だってへたなことはできなくなる。ちゃんと生活保護をだすようになる。

「仲間の命は仲間でももる」これがおれたちのあいことばだ!

ち、新宿メーデー労働者集会が10人の結集で大成功! このあいで、おれたちが、2・17「やぐら」都区検討会」粉碎へ!

このあいだの日曜日、五月一日、西口地下「電話の広場」で、「新宿メーデー労働者集会」が、約一八〇人の結集で成功裡にかちとられた(主催はおれたち「山谷人パト班」)。

おれたち自身、新宿での労働者集会は、さる四月一日「新宿労働者のつどい」につづき二回目。今回も前回同様、山谷でこしらえた弁当(五目めし)を食

べながら、また四年まえの九月十月、全国最大の寄せ場・釜ヶ崎(大阪)でたたかわれた暴動の記録ビデオをみながら、みんなでいろいろと話した。いま東京都は、あらたな「2・17」を準備するため「都区検討会」の第二回目の会議を秘密裡にひらこうとしている。おれたちは、都、区一体となつたたたきだしをゆるさない! 又キウチで月二回おこなわれる荷物撤去に注意しながら、「都区検討会」粉碎までたたかおう。

先週の人口報告

アオヤンの仲間...

4月28日、新宿	545人
4月30日、山谷	402人
〃、上野	319人

ヤッぱり仲間の人数は、新宿がいちばん多い!

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班 (214-0333 (Center) 2071-009)

山谷から

★五月二日、山谷内の行政機関・東京野城北福祉センターで、仲間の怒りが爆発した。★宿泊権を手中でうぢきされた仲間約200人が、「それなら二日に泊まりこんでやる」と福祉センターを突撃で占拠したのだ。

五月二日、早朝から、福祉センターには一〇〇人以上の仲間が、ゴールデンウィーク期間中の宿泊権をもとめて殺到した。二日、援護がうけられ

ば、六日の朝まで施設で、あるいはドヤで、屋根のあるところで久々にゆっくりやすむことができる。メシだつてついてい

る。出口のないアブレ地獄がつづき、アオカンもなくなってきた仲間にとって、今回の「四連泊」はからだをいやす絶好のチャンスだったのだ。

つぎと怒りの声をたたきつける。三階は、一〇〇人も仲間

5・2ころ、福祉センターを200人の仲間で突撃占拠！

3日、食事をさせたぞ

団結すれば行政だってかえらされる

るなか、とうとう、いままでおれたちのまえに姿をあらわすことのないなかつた所長・押切をひきずりだし、「見通しがあまかつた」「もうしわけない」と頭をさげさせた。

うとせず、「きょうはこれ以上の宿泊権はできない」といなおつてきた。

「よしわかった。それならここに泊まりこんでやる！」

約二〇〇人の仲間が、福祉センターを突撃で占拠した。二日から三日にかけての、おれたちのこの占拠闘争におそれ

をなした福祉センターは、三日午前五時三〇分、課長・小山をおれたちのまえにあらためて送りこみ、小山を通して「見通しがあまかつたことについては一きのう所長がもうしあげた通りでございます」と再度「謝罪」した。そして小山は「きのう宿泊できなかつたみなさんに

す」と話し、おれたちはささやかながらも占拠闘争の成果をかちとったのだった。

新宿の仲間たち！五月二日から三日にかけての福祉センター突撃占拠闘争は、仲間が団結してたちあがれば、行政だつてかえられるということハッキリとしめしている。ちようど四月二〇日、都区検討会の再開について協議する予定だった福祉事務所長会議を、新宿の仲間が先頭にたつて中止へ追いこんだのとおなじだ。

仲間たち！いつでもすぐに団結してたたかえるよう、毎週木曜日の労働者パトロールで、横のつながりをもっと強めよう！

木曜日午後九時、西口地下ロータリーにあつまろう！

パトロールでつちかつた仲間の団結をもとに、山谷の仲間など全国の日雇・下層とむすびつき、行政を、この国の政治をおもいつきりかえてやろう！



フボットダンボール・毛布・荷物も必ずねえせ!

トボット東京 真山 野郎どもに返すよ

明日(あす) 9時半(よる) 新宿(しんじゆ)の自前(まへ)に集まり(あつ) 新宿(しんじゆ)福祉(ふき)と都庁(とちゆう)に押し(お)かけよう

新宿の仲間たち!

またしても、強盗野郎、東京都・建設局、

第三建設事務所は、「一斉撤去」を連日、強行してきた。

10日、2・17叩き出しの象徴であった、西口、南側通路のフェンスが取り外され、叩き出しのための「環境整備工事」が一応は、終了した。これにあわせて奴等は「撤去」を行ってきたのだ。

三建の野郎どもは、9日の日に「警告書」なるものを、ダンボールに貼り「ここで寝るな。これからは、撤去をどんどんやるぞ」とおどしてまわってきた。

そして、10の日に、北側通路の「撤去」をやっている所をおれ達が見つけ、抗議をし、「撤去」を中断させたが、その腹いせとばかりに、次の日の朝、南側通路の「撤去」を強

行してきた。

おれ達は、「公務員」の皮をかぶった強盗野郎どもを決して許しはしない。

ダンボールと毛布は、おれ達の家だ。財産だ。その人の家に土足で踏み入り、そればかりか家財道具一切を奪い、家をあとかたもなぐぶっこわしていく。替の着のままのおれ達はとうしろと言うんだ。勝手に野たれ死ねというのか!

強盗野郎どもの頭目、建設局道路管理課の真山よ、第三建設事務所管理課の宮下よ、おれ達がどんな思いで、お前らの仕打ちをうけるのか、必ず思い知らせてやる。

お前らがやってることは、おれ達のたたかいの炎に油をさしているだけだ。

よしーうけてたとうじゃないかー仲間達ー

明日、強盗野郎の巢窟都庁に殴りこみだー

94.5.12

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

福祉も出せ!
荷物もねえせ!

東京都と、新宿区はおれ達のたたかいに心底恐れをいだいている。おれ達がたたかいたちがあがったことで2・17の叩きだし作戦は失敗した。新たな叩き出し作戦も、おれ達が、毎週、新宿福祉に押しかけ、また、4・20福祉事務所長会議をぶつつぶしたことで、東京都と区の矛盾が広がり、いっこうに進まないでいる。新宿の仲間が団結を深め、新宿でねばり強く生き抜いている。

東京都は、それに我慢が出来ないのだ。おれ達のたたかいをつぶし、おれ達を新宿から叩き出すことにあせって、騒ぎとなっているんだ。

が、やつらは、「撤去」ぐらいしか出来ない。そこが、やつらの弱点だ。おおがかりな叩き出しは、度胸がある。だから、こそこそと泥棒をするしかないのだ。

おれ達「都民」が鈴木さんに教えてやろうじゃないか。新宿でねばり強く生き抜こう！

合流して、新宿の仲間が押しかけた！

10日の日、山谷から90名の仲間が、東京都・山谷対策室に対して、押しかけをした。新宿の仲間も40名が応援に合流して一緒にたたかい、「撤去」を中断に追いこんだぞ！

日雇い労働者が都に『福祉対策』を求める

炊き出しご飯食べ抗議行動

4/11日 新宿
ハンストならぬ、「飯を食べて都庁に抗議」。仕事にあぶれて収入がないため、野宿を余儀なくされている都内の日雇い労働者が10日、都庁へ押しかけ、都庁前では炊き出しの「飯を食べる抗議行動」を始めた。都庁前では、全



口地下道に、フェンスや柵を張り巡らす工事が完了し、路上生活者は、結果的に追い出された形になった。抗議行動は、生活保護法などを通じて根本的な福祉対策を求めた。かまに二つの「飯は、全

先週の福祉行動は70名が参加！

先週は、本当に多くの仲間が参加してくれた。これまで最大の15人の仲間が、木曜の労働者パトロールで出会ったり、仲間がさそってきたりと、金曜日、福祉で生活保護を申請し、それぞれ、希望どおり、福祉を取ったり、病院にかかることが出来た。

これだけ、多くの仲間が来たということは、それだけ皆んな、体のことで困っているからだと思う。アオカンが長く続くと、どうしても体の調子が変になる。持病なんかをもって

いる仲間はなおさらだ。

新宿福祉は、調子の悪い仲間を見て見ぬふりをし、アオカンさせながら通院させるなんてことを平気でやったおかげで、去年から50人もの仲間が殺されて来た。こんなヒドイ福祉をおれ達の力で変えていこうと、おれ達は毎週、金曜日に仲間と一緒に福祉に押しかけ

ている。仲間の力で福祉を変えていく取り組みをどんどん広げていこう！仲間どうし気づかいながら、調子の悪い仲間には、声をかけあって、福祉に面倒を見させよう！野たれ死になんてゴメンだ。

先週の「警告書」-4日連続の「斉撤去」-

だげどいくら撤去をくり返したって おれたちを新宿から追出す なんて、できはしないぜ

先の見通しのな、東京都はドロ船に

乗った☆正義はおれたちにある☆

新宿の仲間たち！

東京都の連中がまた、新たな叩き出しの作戦に出てきやがった。みんなも知っているよ

うに、先週の月曜日に「警告書」というものをそこら中に貼って回り、翌日から四日間連続の、「一斉撤去」をやってきた。

警告書を貼っていったのは、今回が初めてだが、その文章を読むと、とんでもないことが書いてある。——「ここは道路です。所持品をもって直ちに他の場所に移動しなさい。応じない場合は、管理権に基づいて排除し、所持品は撤去等の措置をとります。」

フザケルな！荷物だけじゃなく、おれたち人間までも「排除する」と言ってきた。確かに撤去作業は二月一七日並の大きかりなものだった。ポリ公を先頭にして、建設局や第三建設事務所の連中、撤去作業員もかなりの数だっ

た。だが、誰一人として、新宿の仲間たちを「新宿から移動させ、排除する」ことなど、できはしなかったのだ。

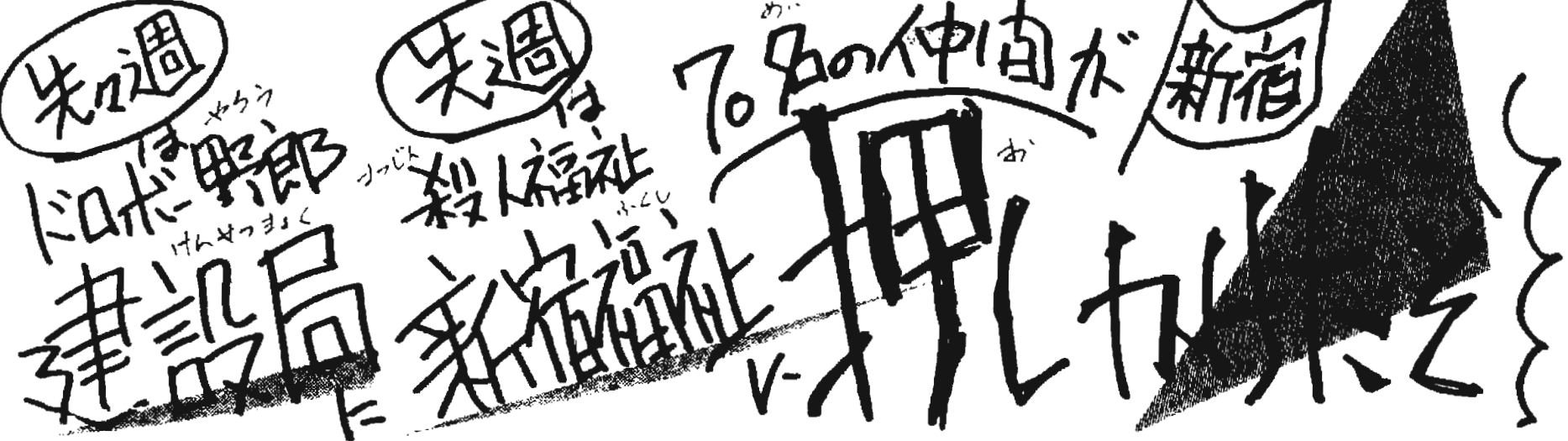
都庁に向かう通路のフェンスが取りはずされ、「環境整備工事」が一段終了したことははずみをつけて、おれたちを叩き出すつもりらしいが、叩き出して一人一人をどうするつもりなのか、東京都に一切の施策はない。

「人命保護」の名すら投げ捨てて、一方的に叩き出しを強行する東京都は、ますます窮地に立たされている。おれたちの反撃が恐ろしい。世間からの非難が怖い。叩き出した末に、多くの仲間が野垂れ死ぬような事態になれば、それこそ社会問題として橋玉に上げられる。都は、自分のやっていることに確信すらもてずに、行きあたりばったりの、その場しのぎの「対策」をくり返しているだけなのだ。やつらに一切の正義はないぜ！

あすも(多)の時分、新宿の目から都区への行動をやらう

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
☎3872-7109 / 3876-7073

東京都の叩き出しを許さず！俺たちは新宿で生きる！



俺たちを「処分」しようとする「実態調査」を阻止しよう！
 叩き出しも福祉に押し付け

新宿の仲間たち！

先月の20日、福祉事務所所長会議がぶつ

ぶされて以降、2・17のような叩き出し作戦

を、東京都はとれなくなっている。西口商店

街などの強力な要請をもとに、鳴り物入りで

組織だっておこなった叩き出し作戦も、俺た

ちのたたかいかいによって実態があばかれ、社会

的にも東京都は非難されてきた。

叩き出し以降も、新宿で野宿する仲間には逆

にふえ続け、「効果はほとんどなかった」と、

マスコミにさえ言われ、また、商店街の人も

「都はなにをやっているんでしょか」と東

京都への不満が噴出し始めている。東京都も

各部署で責任の押しつけが開始され、東京都

と新宿区もどっちが悪いかの泥試合を行なっ

ている。都や区で働いている労働者の間でも、

矛盾が生まれ始め、「叩き出しをやめるべき

だ」という組合（自治労働者）の見解すら
 出た。

東京都と新宿区はもうパニック状態だ。

新たな叩き出しを準備する「都区検討会」

どころではない。会議を開けば責任のなすり

あいが始まるのは目に見えている。

これは、なにかも、2・17の失敗から始

まっている。先の見通しもなく行政の力で俺

たちを叩き出そうとした結果だ。

泥試合なら、泥試合を勝手にやっていたら

いい！その間に俺たちは俺たちの団結を深め

東京都と新宿区を更に締めつけてやる。

先々週は70名の仲間、強盗野郎建設局に

押しかけ、荷物を取り返し、先週も70名の仲

間、殺人福祉の新宿福祉に押しかけ、生活保

護を勝ち取った。俺たちは叩き出しを許さず

新宿で仲間と共に生き抜く！

94.4.26

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
 台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

「新宿の目」を
 集めよう！

窮地にたった東京都は、ますます先の見通しのない叩き出しを繰り返している。「環境整備工事」なる叩き出しの工事が終わったにもかかわらず、理由も明かさず通路を閉鎖したまま誰も通らせない。「一斉撤去」を連日行ない、荷物を強奪し、同時に心理的な圧力を加える。また、産経新聞だの体制側のマスコミを使って、俺たち人パト班が「過激派」だというキャンペーンをはり、俺たち山谷の支援団体と、新宿の仲間の団結を破壊しようとする（下村を使って一度失敗したことを今度はマスコミを使ってやろうとしてるんだ）

いろんな形で俺たちのたたかいをつぶし、俺たちを新宿から叩き出すことをたくらんでいるんだ。

一方、叩き出しでは、イタチゴッコにしかならない。野宿している人の実態をもっとつかみ、総合的な解決の策を出すべきだ。という、一見もっともらしい意見がある。最近「都政新報」という新聞にとりあげられたが、これは、今、東京都の企画審議室（叩き出しの総責任者）がおこなおうとしている路上生活者にかんする実態調査」と同じ主張だ。俺たちの実態を調査するってことは、

俺たちの意見を聞いてくれると言うことではない。俺たちを警察や役人が一人一人調べあげ、リストを作り、どうやったら、俺たちを叩き出し、野たれ死にをさせることが出来るかの資料作りのための、実態調査だ。

甘い言葉にだまされるな！実態が知りたきゃ俺たちのたたかいで教えてやる。どんな思いで仲間が殺されていったか俺たちの怒りで教えてやる。俺たちの合い言葉は「やられたらやり返せ」だ！甘い言葉で、俺たちを殺そうとする「実態調査」をぶつつぶしてやろう！

東西の都政

新宿からなるゴリデラウイク 産直の大都市の例でも産直 産直の大都市の例でも産直 産直の大都市の例でも産直

新宿からなるゴリデラウイク 産直の大都市の例でも産直 産直の大都市の例でも産直 産直の大都市の例でも産直

ホームレス対策の行方

ホームレスの二時的な解決 山形地区でも、仕事がない、先をたてていこうとする。ホームレスの二時的な解決 山形地区でも、仕事がない、先をたてていこうとする。

叩き出しをやらせろとばかり。きつと計画的に叩き出しを行なえとどろどろの「実態調査」の本質だ！

東京都は2・17で失敗した。が、俺たちは2・17以降、仲間の力を合わせ、団結し、山谷の仲間とも結び付き、たたかいにたちあがっている。労働者パトロールの、そして、金曜日行動の団結こそが、俺たちが作ってきたかけがえのない財産だ。この力を更に強めれば今後、東京都がどんなことをしてきても、それをぶつつぶすことは出来るんだ。

明日も、新宿福祉に仲間の団結の力を見せつけてやろうじゃないか。仲間を気遣い、仲間の方で、福祉を取ろう！



東京都の新たな叩き出しもぶっつぶさう！「実態調査」阻止せよ！

殺人事件を口実とした仲間たちが俺たちを叩き出すためのキャノンと銃を許さんゾイ生を抜く！

先週から今週にかけて、仲間が二人殺された。一人は27日中央公園で、一人は31日、安田火災生命ビル前の歩道橋の下で死体が発見されている。共に、頭や顔を殴られ、殺されたあと、死体を目につかない場所に移動されている。殺されたのは深夜から未明にかけてじゃないかと報道されている。

殺された一人は岩手出身の五十七歳の仲間、もう一人は新潟県出身の四十八歳の仲間。二人ともおれ達人パト班のビラをもっていたらしい。

痛ましい事件だ。二人の死者の冥福を祈りたい。

事件の全容はまだ分かっていない。仲間の中にはいろんな噂が飛びかっているみたいだ。警察も事情聴取を行ない、マスコミも嗅ぎまわっている。

高齢の仲間
病を患った仲間

先週もろ名の仲間が福祉に押しかけた
明日(6/3)も新宿福祉社へ
オトなで行こう！

この真相はともかく「どんな事情があったにせよ、なにもここまでやらんでも...」と皆な思っていることと思う。仮に仲間うちのトラブルだとしたらなおさらだ。いままでおれ達は野宿しているいろんな仲間とうまくやってきた。上下の関係じゃなく、横のつながりを大事にしながら、2月17日以降はたたかいいにもたちあがった。東京都や新宿区に殺されてたまるかという思いでたちあがったんだ。確かに、多くの仲間がここで亡くなっていた。でもこんな形で仲間が亡くなるなんて初めてのことだと思う。それだけに悲しい出来事だ。

事の真相はまだ分かっていない。が、こんな悲しいことを二度と繰り返さないよう仲間うちの横のつながりをもっと強くし、仲間の団結の力でおれ達は新宿で生き抜いていこう！

94.6.2

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

アサ9時半
「新宿の目」

注意しなければならぬことがある。この

事件をキツカケに東京都はマスコミを使って
「新宿で野宿している人は何をしでかすか分
からない」「新宿は犯罪者の温床」などとと
んでもないことをキャンペンし、おれ達を
再び追い出そうとたくらむにちがいない。2

17で失敗した東京都は、ありとあらゆる手
を使って来るだろう。おれ達を追い出すため
の口実を懸命になって探している東京都にと
ってこの事件は格好の材料だ。実際、警察が

聞込みと称しておれ達の回りをうろつき始め
ている。奴らは口ぶりとは逆さにおれ達を
「犯罪予備軍」だと心のなかじや思っている。
そして、奴らや福祉の連中が中心となってお

れ達の「実態調査」を行なおうとしている。
この事件をキツカケにおれ達一人一人をリス
トアップしていく「実態調査」の動きも進む
だろう。また、「一斉撤去」の動きも強まる

かもしれない。
東京都の悪質なキャンペンと叩き出しを
ぶちやぶっていくには、おれ達が自前の団結
を深めることだ。仲間の問題は仲間自身で解
決していく。この間の叩き出しへの抗議や、
福祉行動も「下村」なんか頼るんじゃなく、

みんな、おれ達がたちあがり、力をあわせ、
おれ達自身の力でやってきたじゃないか。仲
間が仲間のことを気遣い、助けあいながらや
ってきたじゃないか。この力をもっと、もっ
と強くしていくことだ。
確かに、一言に仲間といっても、いろんな
仲間がここにはいる。モガキが最近多くなっ
たと多くの仲間が言っている。また、酒の問
題をかかえている仲間もいる。どこから金が
流れているか分からないような仲間もいる。
人それぞれと言ってしまうそれまでだけど、

平成6年(1994年)6月1日 水曜日

またホームレス殺人

新宿 頭がい骨陥没の中年男性変死体

東京都新宿区西新宿の青柳橋通沿いにある歩道橋の下で5月31日午前、血まみれになった中年男性の死体が見つかった。そばには血痕のついたコンクリート片があり、頭には陥没した跡があった。新宿では20日にも近くで住所不定の男性の変死体が見つかった。どちらも死体のそばにコンクリート片が落ちており、頭には陥没した跡があった。警視庁捜査一課は、連続ホームレス殺人事件などの可能性もあるとみて、捜査している。



新宿区西新宿の青柳橋通沿いにある歩道橋の下で5月31日午前、血まみれになった中年男性の死体が見つかった。そばには血痕のついたコンクリート片があり、頭には陥没した跡があった。新宿では20日にも近くで住所不定の男性の変死体が見つかった。どちらも死体のそばにコンクリート片が落ちており、頭には陥没した跡があった。警視庁捜査一課は、連続ホームレス殺人事件などの可能性もあるとみて、捜査している。

縄張り争いか

そばに血痕、コンクリート片

「56」によると、男性の死体はコンクリート片が落ちていたところから発見された。そばには血痕のついたコンクリート片があり、頭には陥没した跡があった。新宿では20日にも近くで住所不定の男性の変死体が見つかった。どちらも死体のそばにコンクリート片が落ちており、頭には陥没した跡があった。警視庁捜査一課は、連続ホームレス殺人事件などの可能性もあるとみて、捜査している。

「56」によると、男性の死体はコンクリート片が落ちていたところから発見された。そばには血痕のついたコンクリート片があり、頭には陥没した跡があった。新宿では20日にも近くで住所不定の男性の変死体が見つかった。どちらも死体のそばにコンクリート片が落ちており、頭には陥没した跡があった。警視庁捜査一課は、連続ホームレス殺人事件などの可能性もあるとみて、捜査している。

仲間がここにはいる。モガキが最近多くなっ
たと多くの仲間が言っている。また、酒の問
題をかかえている仲間もいる。どこから金が
流れているか分からないような仲間もいる。
人それぞれと言ってしまうそれまでだけど、

仲間を助ければ生きてい
けないんだ。一人の仲間の問題は、ここで野宿
している六百人以上の仲間の問題だからだ。
東京都が企むおれ達を追い出す口実づくり
を仲間の団結の力で打ち破っていきよう。先週
も雨の中、70人が集まり、福祉行動をやり抜
いたぞ。仲間の団結の力を基礎におれ達の流
儀で東京都にやり返していこう！

お知らせ。
先週福祉行動に参加してくれた
仲間の中に、黒いバックも取りに来
いた仲間がいます。バあたちの
ある人は一斉に下りてい
よう！

殺人事件と口実とは東京都の口に出して詩をん

6/12(日)労働者の集いへ

今一斉に俺たちの団結をふなめよう

夜7時〜西口地下駅前電話の広場にて

明日(6/12)は福祉行動をやるゾ
アオカン、ながら通院なんぞゴメンゼ
年とった仲間を切りすてるな

新宿で野宿する2人の労働者が続けて殺害

された事件で、3人の仲間が先週の金曜日逮捕された。

実に残念なことに仲間うちの事件であった。

多くの仲間から殺された仲間のあまり芳しくない話しも聞いている。また、殺したとされる仲間がエルタワーで仲間を仕切ろうとしていた事実も聞いている。

仲間の中には、今回の事件を他人事のように思っている仲間もいるだろう。「彼等がいなくなっせてせいせいした」と。

が、何故このような事件がおれ連新宿で野宿する仲間の中から出てきてしまったのか？何故、殺された2人がモガキをやり、酒を飲むと暴れたのか？、何故、殺したとされる仲間には、親分子分の関係を作り、仲間を力で仕切ろうとし、仲間内の問題を暴力で解決しよ

うとしたのか？

今回の事件は他人事じゃなく、おれ連新宿で野宿している仲間全体の問題だと思おう。おれ達が2・17以降、作ってきた、作ろうとしてきた仲間の団結の問題だと思おう。この事件をきっかけに、おれ連自身の仲間とのつながりあいをもう一度とらえかえしていかないと、同じような事件が繰り返されないと限らない。

おれ達の毎週の行動には70名近い仲間が集まってくれる。けど、これでよしとする訳ではない。もっと、もっと多くの仲間が新宿にいる。金曜日の行動だけでよしとする訳でもない。多くの仲間がどんな形態であれ、毎日横につながりあっていかなければ本当の団結とは言えないと思おう。

おれ連山谷からの関わりも十分とは言えない

み

あ2
9人井ズビル
「新宿の目」に
あつまる

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

い。山谷の仲間のたたかいと、新宿のたたか
いのつながりをもっと強固にしなければなら
ないと思っっている。

おれ達は、この事件を口実にした東京都の
叩き出しにまけてはならない。東京都はここ
ぞとばかりに、おれ達の団結をぶっこわそう
とたくらんでいる。

おれ達が2・17以降おれ達の力で作ってき
た団結（仲間同士の結びつき）が、今、正念
場に立たされていると思う。どういう関係を
仲間と作っていくのか？おれ達のいろんな問
題をどうやって解決したらいいのか？この事
件を真剣にとらえ直し、おれ達が団結しなが
らどうやってこの新宿の街で生きていけるの
かを、共に、考えていこう。

おれ達は、12日、日曜日、夜7時から、こ
の事件を考え、また、この事件を口実にした
キャンペーンと、叩き出しの強化を許さない
集まりを「いのけん」と合同でもつ。4・1、
5・1の集会同様、仲間の多くの参加で、お
れ達新宿で生き抜く仲間の団結を深めていこ
うと思っっている。仲間が仲間によびかけ、新
たな叩き出しを許さない団結を作り出して行
く第一歩にしていきたい。是非参加してくれ！

東スポの差別キャンペーンを許すな！

この事件を口実にした叩き出しキャンペーン
が始まっっている。その際たるものが、6月4
日の東京スポーツ「NEWS 衝撃の核心」と
いう記事だ。「あっちこっちもポロをまどっ
た中高年のホームレスばかり」「鼻を突くほ
どに悪臭が立ち込めていた」「これほどすさ
んでいけば、第3、第4のケンカ殺人が起こ
ること間違いない」と断定し、東京都は人権
などかまわず、おれ達野宿している者を早く
追い出せと結論づけている。まったく許せな
い記事だ。「野宿労働者は人殺しを平気でや
る」「だから早く追い出せ」という意識を植



えつけようとするものだ。
東京都、新宿区、商店街で構成する「環境浄化対策
委員会」の連中は、警察を引き連れ、6月7日叩き出
しのパトロールを行なった。こういうキャンペーンを
意図的に作り、それを理由に新たな叩き出しを行な
うとしている。差別的キャンペーンをはるマスコミ、
叩き出しをくり返す東京都をおれ達は絶対に許さない。

先週の福祉行動も70名
の仲間が結集。
10人の仲間が医療保護、
生活保護を勝ち取ったぞ！
行動の後、殺された二人の
仲間の冥福を祈り、皆で花
を捧げた。

新宿福祉は、高齢者保護の基準を65才以上と勝手に
決め、65才以下の仲間は、医者が就労不可能と判断し
ない限り保護を受けつけない。台東福祉でさえ、今の
不況の中、60才以上の仲間は働こうにも働けないこと
を認めているのに、新宿福祉は仕事を自分で見つけて
こいと高齢の仲間をアオカンさせている。
また、施設が一杯、区内のドヤも一杯だと、通院が
必要な仲間に対して、相変わらずアオカンしながら通
院させている。こんなヒドイ福祉を、仲間の力で変え
て行こう！区外のドヤ保護を勝ち取ろう！

「殺人事件を口実とした、叩き出しを許さないぞ」

明日午前…新宿福祉行動から

「中央公園の水道を止めるんじやねえよ」

9/7(金)午後…区・公園課抗議行動

あさ9時30分「ズルビル」新宿の目、に☆へ

新宿の仲間も、山谷も、いのけんも一致団結だ 「大団結集会」をやったぞ

新宿の仲間たち！

この前の日曜日（12日）に、おれたちはこの駅の構内で集会をもった。

その名も「新宿アオカン者大団結集会」

百五〇人の仲間が集まり、いろんな事を考

えあった。五月末、おれたち野宿している仲

間の中から生み出してしまった「殺人事件」。

この問題を真剣に考え、同じような痛ましい

悲劇を二度と起こさせないために、そして新

宿で生き抜いていくためにどうしたらいいの

か、皆ながいろんな意見を出して、団結をさ

らに深めようと確認したぞ！

集会では、山谷と「いのけん」の統一した

基調（集会で訴えたい重要なこと）をみんな

に訴えた。山谷のおれたちと「いのけん」と

は「共に闘おうと呼びかけていながら、おれ

たち支援の側が結合しえてこなかった」とい

う大きな反省をしている。そして「新宿で野

宿する労働者の利益を仲間と共に守る」こと

を共通の目的として、山谷と「いのけん」は、

一致団結していくことを確認した。

おれたちが訴えていること——たての関係

じゃなくて横の関係を、親分・子分じゃなく

て、労働者の団結を！——これは何か特別な

ことを言っているわけじゃない。実際、五百

人以上の仲間が、声をかけあい、飯をまわし

て、力を合せて生き抜いてきた仲間どうしの

横のつながりを伸ばして、全てのアオカンの

仲間と結びつこう！そういうことなんだ。

おれたちの団結を打ち壊して、バラバラに

させて、この新宿から追い散らそうとする東

京都の野郎になんか負けてたまるか。新しく

新宿に来た仲間にも、たての関係を作ろうと

する仲間にも、一つ一つ話しをして、一緒に

東京都に立ち向かおうじゃないか。その団結

の芽は、確実におれたちの中にあるんだ。

「殺人事件」を契機として、おれたちを追

い出そうという連中は動きを始めた。中央公

園の水道を止めたのはいい例だ。やられたら

労働者の団結でやりかえそう！

94.6.16

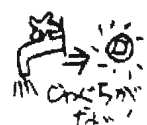
集会のあと、40人の仲間
を招いた仲間のめい福
を祈り、花を捧げに行くと

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

え、水道の水が出ない？

中央公園はおれたち

を止め出す気が



あ、抗議を
しに行こう

「殺人事件」をキッカケとして、商店街や都
の職員、ポリ公の連中らの「追放パトロール」
が始まった。一四日の火曜日には、「いのけ
ん」の仲間と共に、「追放パトロール」をや
っている連中に抗議の声を叩きつけた。さ
らに、「中央公園の水道が止められた」とい
う話しが伝えられた。見に行くと、蛇口が外
され、一滴も水が出ない状態になっている。
中央公園では、天気の良い日に、洗濯をする
仲間が何人もいたんだ。これは露骨な追い出
しじゃないか。生活に不可欠な衣類を洗うこ
とすらさせない。「きたない服を着ている。
おまえらは公園に来るな」そんな声が聞こえ
てくる。
それならきれいな服をだせよ！出せないな
ら水道を止めるんじゃない。「いのけん」の
合同会議での仲間の声を受け、皆で抗議し、
追い出しに反撃していこう！明日、午後から
抗議行動をやるぞ。声を上げに行こう！

新宿福祉はやっぱり 毎日うとんを食いにくるなとほぐ

お仲間「仕事をさがせ」と言い、

新宿福祉への毎週金曜日の行動には、この

一カ月以上、七〇人以上の仲間が参加し、高
齢や病気の仲間を支え、生活保護を勝ちとる
取り組みを続けている。確かに、門前払いを
させない、希望にそぐわないやり方をさせな
い、そんな取り組みとしてはできてきた。
だけど、体の具合が悪くても、入院する
程でなければ、「アオカンしながら病院に通
わされる」という大きな問題は、まだまだ解
決できていない。

先週、ある仲間が胃の具合が悪いと訴え、
病院で見てもらったら「慢性胃炎」の診断が
出た。通院が必要であるとも言われた。しか
しだ、診察した医師が「労働できる」と判断
したおかげで、宿泊所にもドヤにも泊まるこ
とが出来なかった。寮やドヤが一杯だからじ
やない。最初から泊まらせる気がないんだ。

この仲間は、「調子が悪いから寮かドヤに
泊めさせてくれ」と何度も訴えた。一時間以
上も訴え続けた。だが全くラチがあかない。
役立たずの係長もいたが、対応は同じだ。

もう怒ったぞ！新宿福祉のひどさを、区長

に訴えてやる！仲間は区役所三階の区長室に
乗り込んで、実状を訴えた。

慌ててすっとなってきた福祉事務所の課長。
武山は「わたしたちが決めたやり方に文句が
あるのなら、不服申し立てでも何でもやって
ください」と居直ってきたのだ。

ここまで言うのならおれたちも考えがある
ぞ。生活保護法どりの保護をちゃんとやつ
てもらおうじゃないか。まず、「保護の申請」
に対する回答をもらってやろう。法律では、

「保護の申請から十四日以内に、文書で保護
決定か否かを通知しなくてはならない。保護
しない場合には、その理由を明記しなくては
ならない」と決められている。

それなら、「保護決定通知書」を受け取っ
てやろうじゃないか。だいたい、アオカンし
ながら病院に通わせるなんて、生活保護法違
反なんだぞ。新宿福祉よ、いつまでもいい気

になるな！明日17日新宿福祉に押しかけよう。
おれたちの力で、徹底的に変えてやろう！

アオカンにながら通院させるな 先週は区長室にのりこんだぞ

7.12新宿一日行動実行委員会が結成された 山谷「いのけん」新宿の仲間が結びつき 仲間新宿生活支援団結工作出陣

明日(6/24) 午前 福祉行動のあと 午後 山課に押し付けるお9:30 新宿目 結集 七区

中区・公民課・杉田屋の居なおりを許すな
中央公民の水を元通りつかわせよう

仲間たち16・12大団結集会を受け、山谷

・人民パトロール班と「いのけん」は、新宿の仲間とともに、より一層むすびつきながらたたかっていくことを仲間の前に誓った。

この誓いをおれ達は具体的なものにしたいたいと思っっている。先週火曜日の「合同会議」で仲間から提起された中央公園の取水制限への抗議を金曜日に三者が共に団結してたたかっただように、このつながりをもっともっと強めていきたい。

そんな思いから7・12一日行動実行委員会をおれ達は結成した。これは当面は7・12のたたかいたためだが、それだけじゃなく、この会をそれ以降の新宿のたたかいは作り出すための核となるものになりたいと思っっている。山谷、「いのけん」そして新宿の仲間のより一層強固な団結の形態にしていきたいと思っ

っている。

火曜の「合同会議」で、俺たちは「仲間の自前の団結の証しである組織をつくろう」と提起した。仲間が日常的につきあい、結びついていけようという団体をこの新宿の街からは非つくろう！おれ達、山谷、「いのけん」は仲間とともに最後まで連帯しながらたたかいていく。

「殺人事件」を契機に強まったおれ達の団結を発展させよう！どんなキャンペーンや弾圧にも負けない仲間のつながりをつくり出し、山谷の仲間や、全国の野宿労働者とながっていくようなたたかいはもっと、もっとつくっていきましょう！おれ達は新宿で東京都の叩き出しに抗し生き抜いてやる。仲間の問題はおれ達の力で解決してやる。

7・12行動を仲間の力で成功させよう！

94.6.23

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

中央公園の蛇口制限をやめたい
 仲間たちの生活水
 山課長 杉田課長
 抗議の風を!

先週は仲間70人で、中央公園の取水制限を一方的にやった新宿区公園課におしかけたぞ!

おれ達が、生活水として使っていた中央公園の蛇口を奴等は、チョロチョロとしか出ない蛇口に変えてしまった。これでどうやって体を洗い、洗濯が出来るといふのか? おれ達は、水を無駄づかいしたり、他の公園利用者の迷惑なんてかけてこなかった。それなのに奴等は節水とかなんとかいいながら、おれ達の生活水を奪おうとしている。

仲間が先頭に課長の杉田屋につめよる。おれ達がどんな思いでアオカンし、何故、中央公園を利用せざるを得ないのか、仲間の切実な声にも杉田屋は「節水のためにやった。要望は聞き入れない」と居直り通した。

「フザケルナ! 何度でも押しかけてやるぞ! こうなったらジャブジャブ池や、区役所の池で洗濯してやるぞ! 仲間たち! 新宿区公園課を徹底的にやっつけてやるぞ!」

アオカン通院 二人はんで病気が直るはずね! 新宿福祉は ねとマジメやい! 仲間の力が変えてやるぞ!

なんだこれは?? なんだこれは!! 先週の金曜日の福祉行動で「保護決定通知書」をうけとろうと、俺たちのよびかけに答えてこの通知書をうけとった仲間がいた。

保護の申請をした人には保護の決定か否かを通知しなければならぬ義務が福祉事務所にはあるんだ。ところが、俺たちが住所不定であることを理由に新宿福祉はこの通知の義務をおこたってきた。が、それだけならまだカワイイ。当然出すべきものを出してもらおうと頑張ってアオカン通院させられてた仲間がこの通知書をうけとったんだ。

その通知書を見てビックリだ。なんと、保護を決定した理由が①病気であること②生活に困っているため③金がないためと見事に書いてあるのに、保護の内訳は、医療扶助のみ。生活扶助も住宅扶助も0となっている!

おいおい! 新宿福祉は生活保護法をちゃんと読んだことがあるのか? 保護を決定した3つの理由で、福祉は申請したAさんが医療扶

助だけじゃなく、生活扶助、住宅扶助も必要な「要保護者」(生活保護が必要な人)であることを認めている。それなのに、それなのにだ、医療扶助だけでは一体どういうこと? や! 野宿している者は生活扶助や住宅扶助が必要ないというのか?

生活保護法第1条「...国が生活に困窮するすべての国民に対し、その困窮の程度に応じ、必要な保護を行ない、その最低限度の生活を保障する...」

同第12条「生活扶助は、困窮のため最低限度の生活を維持することのできない者に対して...行なわれる」

こんなヒデー福祉は他にない! 何度でも押しかけ、仲間の力で新宿福祉を変えていこう!

保護 決定通知書

生活保護法第12条第1項第1号

生活保護法によるあなたの保護を、次のとおり決定しましたので通知します。

1. 申請 申請日 平成 年 月 日

2. 所属 申請者の所属 (生活に困窮していること) (生活保護法第12条第1項第1号)

3. 保護の内容及び期間 (生活保護法第12条第1項第1号)

年月日	生活扶助	住宅扶助	医療扶助	現物給付
平成 年 月 日	0	0	0	0
平成 年 月 日	0	0	0	0

4. 保護の内容 (保護の開始及び終了)

年月日	生活扶助	住宅扶助	医療扶助	現物給付
平成 年 月 日	0	0	0	0
平成 年 月 日	0	0	0	0

5. その他の取組むべきこと

6. この決定に関するお知らせ

ついにやった！全国で初めて、野宿労働者自身の闘い会

新宿闘う「中間」の会が

山谷からも全力で支援するぞ！ 6/24 結成された

新宿の仲間たち！

先週の日曜日、新宿の仲間が力を合せて闘

い、生き抜いていくための、仲間自身の会が

結成された。その名は——「新宿闘う仲間の

会」だ。この会は、二月一七日の「一斉叩き

出し」以降、粘り強く都や区への抗議行動を

担ってきた仲間を中心に、一もつと仲間の輪

を広げよう——アオカンする仲間がかかえる

いろんな問題を一緒に解決していこう」と旗

あげされたものだ。

—連続殺人事件—のような痛ましい事件を

二度と生み出さない、仲間うちの問題は仲間

自身の力で解決する、追い出しをはかる都や

区への行動を呼びかけ、仲間の方で担ってい

く、野宿労働者の命の問題を広く社会に訴え

喚起していく、そんな行動が、これから「新

宿闘う仲間の会」を中心に進められていくこ

とだろう。山谷のおれたちも、全面的に支援

するぞ。一いのかん——とも力を合わせて、新

「新宿闘う仲間の会」を先頭に……

あつちの仲間たち！
午前 福祉行動から
午後 区長室へ

宿での闘いを共に作っていききたい。

「新宿闘う仲間の会」は、先週日曜日午後

からの、区・公園課抗議行動をかきりにし

て、二六日山谷での一日雇全協反失業報告討

論集会—に参加、全国の日雇いの仲間との団

結を固めた。さらにその夜の「一いのかん—の

炊き出しの後、街頭カンパ活動に出て、労働

者・市民・学生に支援を呼びかけ、翌日か

も「募金活動—を精力的に続けている。

—新宿闘う仲間の会—は、限られたメンバ

ーだけの団体ではない。広く参加を呼びかけ

ている。そして、上下関係もない。みんなが

横一列に並んで、意見を出し合って、全体の

総意で行動を決めている。毎週火曜日の午後

七時から、一電話の広場—で会議を持つとい

う。ぜひ「仲間の会—に参加しよう。そして

七月一二日の「新宿一日行動—の成功に向け

て、仲間を声をかけあおう！おれたちは「新

宿闘う仲間の会—と共に歩み続けていく。

のりこむぞ！
おと 9:30
新宿の目
集合

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

衣類出せ、風呂券出せ、メシ出せ、中央公園の水出せ！

要來に明日区長から回答がでるぞ！

先週の木曜行動では、新宿福祉と区・公園課に行き、一新宿闘う仲間の会が先頭になって抗議と追及をあげてきた。

新宿福祉へは、「仕事に行けと言うのなら下着と着替えを出せ！」一風呂券を支給しろ！

「仕事につける条件を保障しろ！」と当り前の要求を出して、寒竹第一係長に食いさがつた。

だが係長はこう言う。「衣類は入院する人、仕事に行く人には出すが、みんなに配るわけにはいかない」一風呂券も今年は余りが無い。

係長じゃ話しにならないと、引きずり出した課長・武山はもつとひどい。

うちでは精一杯のことをやっている。これ以上の事はできない」の一点張りだ。

「毎日うどんを食いくるな！ここは食堂じゃないんだ！」と追い払い、「仕事を捜せ」と頭ごなしに言う新宿福祉は、本当におれたちの事を考えているのだろうか。

明日の行動でさらに追及を続ける。さらに午後からは、「節水対策」と称して

中央公園の水を出を悪くしたことに對して、再度公園課に押しかけた。課長の杉田屋は先々週と同じ答弁の繰り返しだ。水を元のように出すことは、一カ所であれ出来ない。のらりくらりと喋りながら結論はこれだ。ラチがあかないので、課長の上の土木部長への面会を求めたが、不在。土木部管理課長

を追及するが、回答はなんら変わらず。もう怒った。それでは区長に事態を聞いてもらい、区の判断を出してもらおう！みんなだ区長室に押しかけ、面会を求めた。だが、秘書におれたちの厳しい現実を訴え、区長に伝えてくれ、回答を聞かせてくれとつめより、明日（七月一日）、区長からの回答が出されることになった。区長の判断は新宿区の判断だ。みんなだ聞きに行こう。フザケタ回答なら、抗議の声を上げよう！

26 日雇全協集會に仲間の会が参加 全国の日雇いの仲間との団結をうち固めた

六月二六日、山谷労働者福祉会館で全国の日雇いの仲間百人以上が集まり、日雇全協反失業報告討論集會が熱気の中で勝ちとられた。新宿からも「闘う仲間の会」から八人が参加し、闘いの報告と支援を訴えた。日雇全協は、全国の五大寄せ場（山谷・寿・笹島・釜ヶ崎・福岡）の日雇労働組合が結合してつくられた全国組織だ。各地の寄せ場でアプレ地獄に抗して、生き抜くための闘いが粘り強く闘われている。市内五千人もの野

宿労働者が生み出されている大阪では、釜ヶ崎日雇労働組合を中心に、一週間の府庁前野営闘争が取りくまれ、二七日からは労働センターを二四時間開放させる闘いを、野宿労働者を先頭に勝ち取ると、決意が語られた。「新宿闘う仲間の会」からの報告には、より大きな拍手が上がり、日雇全協—全国の日雇いの仲間が共に闘うことを確認した。新宿の闘いは全国の日雇いの仲間を支えられている。全国の仲間と共に突き進もう！

7.12(火)集結!おれ達の声

朝8時 西口地下
電話の広場に集まる

新宿の街をゆめくせ

中央公園の水を元通りにさせろ!
仲間が声を出せばおれ達は勝てるんだ!

新宿の仲間たち!

先週の木曜日、新宿の仲間五十人を先頭に、おれ達は新宿区におしかけたゾ。

「殺人事件」をきっかけに、中央公園の水道の蛇口が変えられ、水の量がチョロチョロとしか出ないようになってから、三週間にわたり、区・土木部、公園課、そして、区長室に対して抗議行動を繰り返して来た。

このクソ暑いのに、洗濯も出来ない、体も洗えない。中央公園は、仲間の休息の場でもあり、その水道は、仲間が昔から利用してきた生活水だ。それを勝手に制限して、チョロ

チョロとしか水を出さないとは何事だ! 公園で水を出さないのなら、福祉がシャツやフ口券を支給するのがせめてもの人道的立場であろう。おれ達の怒りは福祉への具体的な要求をも含んで、おれ達を実にインケンなやり方で追い出そうとたくらむ新宿区総体に向けられた。

先々週の弾劾行動で、おれ達の要求に対し区長や関係部局で話しあって、区の判断が出来ることになった。

そして、おれ達の粘り強い追及の中、ついにやった。土木部・公園課は、おれ達の要求を飲んで、中央公園の水の量を今まで通りにすることを確約した!

おれ達は、おれ達自身の力で、おれ達の生活を防衛していく要求を通らせたんだ!

この勝利は誰かの成果でもない。仲間が一人、一人声を出しあい、三週間にわたり抗議してきたからこそ勝ち取れた成果だ。一人だけが抗議するのではなく、数十人もの仲間が怒りをもって区役所に押しかけ、たたかった成果だ。

おれ達はこうして、おれ達の生活を防衛していける。おれ達の要求を飲ませることが出来る。この勝利の力を武器に、七・一二二日行動を仲間の総結集でたたかおう!

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

明日は福祉行報だ

仲間たち、東京都、新宿区の叩き出しを許さず、新宿の仲間先頭に立ち上がる!

七・一二行動はこんな重要なたたかいかいでもある。

東京都、新宿区はおれ達を叩き出そうと今、躍起になっている。そのための作戦会議（都区検討会）が秘密裏に行なわれている。九十六年の「東京フロンティア」まで、動く歩道を作ったり、新地下鉄を都庁下に通したりと、新宿の駅、都庁近辺を再度、整備しようと思

っている。そのためには、おれ達の存在が奴等にとっては邪魔になるんだ。だから奴等はあの手、この手を使って、おれ達を叩き出そうと力を入れてくるだろう。

東京都、新宿区が本格的に動き始めたら、もう遅い。その前に、おれ達はこれのたくらみを撃ち破っていかなくてはならない。

これは、新宿で野宿する一人一人の問題だ。ここを叩き出されても行く所などありはしない。街中をさまよい歩き続け、人知れず野た

れ死ぬなんて冗談じゃない。だからこそ、おれ達は、ここで踏ん張っていかなくちゃならない。おれ達にまず出来ることは、おれ達の声をあげることだ。おれ達はゴミじゃない。おれ達も同じ人間なんだと声をあげることだ。そして、おれ達を叩き出すようなことがあったらとんでもない事態になるぞと東京都や新宿区に圧力をこちら側からかけていくんだ。

そのためにこそおれ達は団結していかなくちゃならない。

七・一二は、おれ達、新宿でアオカンする仲間の総結集の場所だ。おれ達の底力を見せつける場所だ。

今までの取り組みに参加してくれた仲間、そして、始めての仲間も含め、是非参加してほしい。「黙って野たれ死ぬな！生きて奴等にやり返せ！」

同じ仲間の事を気づかいあおう！病気がちな仲間、高齢でもうアオカンはきついなと思っ

ている仲間に、声をかけあおう！

明日も福祉行動をやるぞ！福祉にかかりたい仲間を支援、仲間の力で、アオカン通院などぶさけた事（法違反）を平気でやる新宿福祉のやり方を、変えていこう！ウドンだけでも食わないよりマシだ。保護しないのなら、せめて福祉に毎日、メシをださせよう！福祉の都合ばかり押しつけるな！福祉はおれ達の声を聞け！朝、九時半「新宿の日」結集だ！

三三に集まってくれ、

7月12日新宿一日行動

あさ8:00 じらまき

あさ10:30 デモ

よる6:00 集会

主催: 7.12新宿 (山崎、人外、班、のり、のり、新宿、新宿、新宿)

三三に集まってくれ、

明日9月30日新宿の日に集まろう 新宿福祉をしめつけよう

明日も福祉行動をやるぞ！福祉にかかりたい仲間を支援、仲間の力で、アオカン通院などぶさけた事（法違反）を平気でやる新宿福祉のやり方を、変えていこう！ウドンだけでも食わないよりマシだ。保護しないのなら、せめて福祉に毎日、メシをださせよう！福祉の都合ばかり押しつけるな！福祉はおれ達の声を聞け！朝、九時半「新宿の日」結集だ！

あす火曜日!

7.12新宿1日行動

都庁をくわいてみる

都庁をくわいてみる

生活保護法について

仲間たち! 「ワ・は新宿1日行動」が、

いよいよあすにせまってきた。この1日行動は、「東京都・新宿区はただしをやる」! 「あたりまえの生活保護をだせ!」

といった新宿の仲間の声を、都庁にたいしてたたきつけていく、仲間の怒りをひろく世間にもひろくしていくための行動だ。

いま、都・23区はフルになり、「都区検討会」という会議をふらしてアオキンの仲間の「実態調査」をし、仲間を地域からたたきだそうと躍起になっている。こんな動きをゆる

してたまるか! 新宿の仲間が先頭にたつて

「都区検討会」「実態調査」をぶっ飛ばしてやるう! あすの行動は、そのための前哨戦だ。

またあすは、山谷から、そして都内各駅か

らも、アオキンの仲間がおおぜい志援にかけつけてくるぞ! 仲間たち! あす火曜日、

「ワ・は新宿1日行動」にあつまろう!

《ワ・は新宿1日行動》

あす8じ「プラマキ」

(西口地下「電話の広場」まえ)

10じ羊大々保公園移動

12じデモ出発

大々保公園から都庁まえをとり中央公園まで。中央公園でXをくわいていく。

ゆうがた6じ集合

(「電話の広場」まえ)

8じ解散の予定

(主催・ワ・は新宿1日行動)

94年7月11日

●山谷労働者福祉会館・人民/キロー/ル班●
東京都台東区日本堤1-25-11 TEL03(3876)7073/(3872)7109

俺たちはゴミじゃない！都・区は叩き出しをやめろ！

野宿労働者に生活保障・就労保障を行なえ！

すべての皆さん！

東京都、新宿区の叩き出しに抗し、本日、新宿で野宿する労働者が先頭で抗議行動をうち抜いています。

空前の大不況の中、職を奪われ、あるいは怪我や病気や、高齢のため仕事につけず、そして、帰る家もない五百から六百もの労働者が今、この新宿の街での野宿を強いられています。

国や都が仕事を保障（例えば失対事業）しさえすれば、多くの野宿労働者はこんな過酷な生活をしなくてすむのです。新宿福祉が生活保護をまっとうに適用（施設保護やドヤ保護、老人ホーム等）しさえすれば

「障害」をもった仲間や、高齢の仲間は、野宿をしなくてもすむのです。ところが、行政は野宿労働者の生活保障、就労保障など何もせず、この街の道路やビルを汗水流しながら作った日雇の労働者、高度経済成長期に農村や地方から「金のたまご」ともてはやされ、都会に集められた労働者を、低賃金で酷き使い、搾り取るだけ搾り取ったあげく、ゴミのように、叩き出し、使い捨てようとしているのです。

野宿労働者をこの新宿の街から叩き出し、彼・彼女らを野たれ死にへと追い込んでいくこと、つまり「いらなくなった労働力」として「処分」していくこと、これが、東京都、新宿区がやっている全てです。

こんな人権のかけらもない行政がどこの国にあるのでしょうか？
現に昨年から六十数名もの尊い生命が、路上で奪われています。しかし、行政は住民の苦情には対応するが、野宿労働者の現実や、要求に対しては全くなにも応えようとしません。応えないばかりか、ダンボール、荷物の無断撤去を行ない、寝場所にフェンスをはり、ボランティア団体に圧力をかけ炊き出しを中止させ、公園の水道の蛇口を止めるなど、「環境浄化」で野宿労働者が一街の美観を損ねる」と、叩き出しを強めているのです。

また、東京都は「ホームレス、外国人、麻薬犯罪」が都市の三大悪だとし、取り締まりのための「実態調査」を開始し、警察は、野宿労働者が潜在的犯罪者だといわんばかりの人権を無視した不法な取り調べを頻繁に行なっています。

もはや、これを殺人行政と言わず何と言うのでしょうか？ 私たちは東京都・新宿区を絶対に許しません。都・区に2・17一斉叩きだしの責任を取らせる！人間として、労働者として生きる権利を求めると、新宿野宿労働者はたたか

いに立ち上がっています。そして、山谷でも横浜、川崎でも名古屋でも大阪でも福岡でも野宿労働者は反失業のたたかいを繰り広げています。全ての皆さん！野宿労働者のたたかいに支援を！労働者を使い捨てる行政を労働者のスクラムで共に撃っていきましょう！

7・12一日行動実行委員会

新宿闘う仲間の会
山谷労働者福祉会館・人民パトロール班 03(3876)7073
渋谷・原宿 生命と権利をかちとる会 03(5273)5065

新宿-山谷-寿(横浜)-東京駅をつらぬいて

対 都庁 デモをやりぬいたぞ

7・12「新宿一日行動」が大成功

次は7月20日(木)夕方からの

新宿福祉「街頭相談」へおしかけた

新宿の仲間たち！

ち上がったのだから。

7・12新宿「一日行動」が大成功した。朝のヒラ撤き情直から昼のデモ、夜の集会の三つの行動をやり抜き、のべ二百人、デモ行進は百五十人の大部隊で新宿の街を席卷した！

二月一七日の東京都と新宿区の合同による

「一斉叩き出し」から五ヶ月、都庁や区役所への連続の抗議行動を重ね、仲間の団結を強めてきた闘いの成果が、大きな行動として実を結んだ。駅から叩き出す事が、何の解決にもつながらないこと、俺たちは「路上生活者」でも「ホームレス」でもなく、日々の仕事を求めて働く労働者である事を社会的にもマヒ

ルした。都 区は叩き出しをやめ、まともな生活保障・就労保障を行なえ」とスローガンを掲げて起ち上がったのには、都の連中もブツたまげたことだろう。「環境整備」と称して、ゴミ同然に扱われてきた俺たちが、人間として誇らしく、当然の闘いリデモに起

「一日行動」には、山谷からも二〇〇人の仲間が合流、さらに横浜の寄せ場、寿からも日雇いの仲間が駆けつけてくれた。東京駅でアオカンする仲間も一人参加し、新宿を拠点に仲間の輪は確実に広がっている。

ちようど梅雨明けの日にあたり、30度を越える真夏日の炎天下のデモ行進は、道行く労働者たちの大きな注目を集めた。道すがら、新宿職安に「もっと仕事をせよ！」と声を上げ、五月末に死んだ宮沢さんの殺害現場では黙祷を捧げ、そして都庁前ではあらん限りの声を上げ、俺たちの抗議を叩きつけてきたぞ！

東京都と新宿区は俺たちの怒りを思い知るがいい。まだまだ闘いは続けるぞ！夜は「電話の広場」で集会をもち、マサさんのサククス演奏で最高に盛り上がり、団結ガンバロウで行動を締めくくった。次の闘いは七月二〇日、新宿福祉「街頭相談」への押しかけだ！

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

台東区日本堤1-25-11 ☎3872-7109/3876-7073

次なる叩き出しのための「実態調査」をやるなら

「街頭相談」などつぶしてしまえ

来週の水曜日（七月二〇日）の午後五時三〇分から、西口地下・スバルビルの前で、新宿福祉の「街頭相談」が行われる。

これは二月一七日の、「臨時街頭相談」以来、初めての駅構内での出張相談となる。思い起こしてみよう。二月一七日、東京都の「一斉叩き出し」（荷物の強奪とフェンス・植木の設置）と全く同じ時刻に、俺たちを寄せ集め、大田寮へ収容し、新宿から引き剥がしたのは、新宿福祉の「街頭相談」だった。たった二、三分の面接で、ろくに人の話も聞かず、六十五歳以上か以下かで、大田寮に泊まる期間も振り分けて、六十五歳以下の仲間にはその後の生活の保障など考えようともしなかつた奴らのやりかた。何が「人命保護」だ！新宿福祉が東京都とグルになって、俺たちの叩き出しに手をかけたことは、誰が見ても明らかになっている。

都とグルになっておれたちを叩き出した新宿福祉は 2月17日の責任をとれ

新宿福祉には、二・一七叩き出しの責任を取ってもらおう！「東京都が撤去作業をやる

とか、フェンスを張るなどというのは、知らなかつた。臨時の街頭相談をやったら、撤去の日に当たってしまった」などとほざき、責任逃れをしようとする新宿福祉を懲らしめてやろう！来週の「街頭相談」では――

◎六十五歳以上の仲間には、病気があんなしにかかわらず、その場で生活保護を適用し、ドヤ・宿泊所への入所を勝ちとるぞ！
二月にはできて、今回はできないという話しにはならない。回りにいる高齢の仲間を声をかけて、一緒に「相談」の場へ行こう！

◎病気の仲間には、一人一人丁寧な診察を行

わせ、通院の必要な仲間は、寝る場所を保障させよう！当日は児玉経堂病院の医師・看護婦が来て診察をする。おさなりの診察しかないし、入院できるベッド数は、五床程だ。

入院が必要な仲間がその日に入院できないのなら、「街頭相談」などやめてしまえ！
◎食事はお決りのカップうどんだ。もつとまじなものをおかわせろ！うどん一杯出すのに、人の生活の事をごちゃごちゃ聞くな。衣類が必要な仲間には、ちゃんと支給しろ！

次なる叩き出しのために、俺たちの「実態調査」をやろうという都・区の動きがある。「街頭相談」の場で、俺たちの生活の実態を調査しようなどという動きがあったら、すぐさま声を上げて、叩きつぶしてしまおう。



新宿福祉は叩き出しを止めろ
東京都は労働者を叩き出すな
新宿福祉は叩き出しを止めろ
東京都は労働者を叩き出すな
新宿福祉は叩き出しを止めろ
東京都は労働者を叩き出すな

2-17叩き出しの責任をとり、新宿福祉は謝罪しろ

新宿福祉の「街頭相談」に す(多)みんなでおしかけよう

年とった仲間や病気の仲間をささえ！
よる6時電話の広場に集合だ

新宿の仲間たち！

明日(あす)へ七月二〇日、午後五時三〇

分(ぶん)から、西口(にしぐち)地下(ちか)・スバルビル(すばるビル)の前(まえ)で

新宿福祉(しんじゅふき)の「街頭相談(かど相談)」が行(か)われる。

これは二月一七日(にがついちにち)の、新宿(しんじゅ)から追(お)い

出す(い)すため(ため)に行(い)われた「臨時(りんじ)街頭相談(かど相談)」

以来(いらい)初めて(はじめて)の「街頭相談(かど相談)」となる。

二月一七日(にがついちにち)には、東京(とうきょう)都(と)と新宿区(しんじゅく)の

いいよう(よう)にされ(さ)れてしま(ま)った。ダンボ(ダンボ)ー

ルハウス(ルハウス)を叩(たた)き壊(こ)され、荷物(荷物)を奪(さら)われ

て路頭(かど)に迷(まよ)っている所(ところ)に、福祉(ふき)が待(まち)

かまえていて、百人(ひゃくにん)以上の仲間(仲間)を大田(おおた)

寮(せう)に収容(しゆうよう)した。人命(じんめい)保護(ほご)でも何(なに)で

もない、野宿(のしゆく)労働者(ろうどうしや)を新宿(しんじゅ)から追(お)い出

すため(ため)に仕組(しぐみ)んだ作戦(さくせん)だったのだ。

街頭相談(かど相談)の何(なに)が問題(もんたい)なのだろう

か。それは、駅(えき)でアオカン(アオカン)する労働者(ろうどうしや)

の声(こゑ)が全然(ぜんぜん)汲み取(くみ)れず(ず)に、一方(いっぽう)的に

計画(けいかく)が決(き)められること(こと)だ。わざわざ駅(えき)

まで出(で)て来(こ)て「相談(さだん)」を受(う)けてくれる

という(いう)のだから、本当(ほんとう)に仲間(仲間)のため(ため)に

なる「街頭相談(かど相談)」にして(して)もら(もら)おう。

要求(ようきゅう)の大き(おほ)きな軸(ねじり)は次(つぎ)の三(さん)点(てん)だ！

①六十五歳(ろくじゅうごさい)以上(いじょう)の高(たか)齢(れい)者(しや)には、その

場(ば)で生活(せいかつ)保(ほ)護(ご)を適(てき)用(よう)し、ドヤ(ドヤ)・宿泊所(しゆくぱくじよ)

での生活(せいかつ)を保(ほ)障(しょう)しろ！二月(にがつ)には出(で)来(こ)た

事(こと)だ。今(いま)回(かい)も同(どう)様(じやう)にや(や)ってもら(もら)おう！

②病(びょう)氣(き)の仲(な)間(ま)には、丁(てい)寧(ねい)な診(しん)察(さつ)を行(い)

え！入(い)院(えん)が必(ひつ)要(よう)な仲(な)間(ま)は即(そく)刻(こく)入(い)院(えん)させ

ろ！通(つう)院(えん)が必(ひつ)要(よう)な仲(な)間(ま)にも、寝(ね)る場(ば)所(じよ)

・食(く)うもの(もの)を保(ほ)障(しょう)しろ！

③カッブ(カッブ)うど(うど)んを出(で)すの(の)に、身(み)元(もと)調(てう)

査(さ)な(な)どの面(めん)接(せつ)を行(い)うな！も(も)つとま(ま)しな

もの(もの)を食(く)わ(わ)せろ！都(と)区(く)で進(しん)め(め)る「実(じつ)態(たい)

調(てう)査(さ)」を(を)やる(やる)の(の)なら、その(その)場(ば)でテ(テ)ント

を(を)た(た)た(た)んで帰(かえ)れ！

明日(あす)、午(ご)後(ご)六(ろく)時(じ)、カ(カ)レ(レ)ー炊(炊)き出(で)しの

山谷(やまや)労働者(ろうどうしや)福祉(ふき)会(かい)館(かん)・人(じん)民(みん)パ(パ)ト(ト)ロ(ロ)ール(ール)班(ばん)
台東区(たいとうく) 日本(にっぽん)堤(づつみ) 1-25-11
電話(でんわ) ☎ 3870-7073

94 7.19

<あすの行動予定>

1. 新宿区役所前(しんじゅくくやくじよまへ) びらまき行(い)動(どう) 7時30分(7じ30ぶん) 新宿(しんじゅ)の目(め)集(あ)合(あ)い
2. 福祉事務所(ふきじむじよ) 「要求書(ようきゅうじよ)」提出(ていしゆ)行(い)動(どう) 10時(じゆ) 区役所前(くやくじよまへ)集(あ)合(あ)い
3. 「街頭相談(かど相談)」お(お)し(し)か(か)け(け)行(い)動(どう) 6時(じゆ) 西口(にしぐち)「広(ひろ)場(ば)」集(あ)合(あ)い

新宿の街頭相談は10年以上おれたちを追い出すために続けられてきた

新宿駅周辺環境浄化対策現地出張相談した

新宿福祉の「街頭相談」は、年四回ほど定期的に

行われてきた。始まりは、八一年の

「西口バス放火事件」だった。この事件を契

機に、新宿から野宿労働者を追い出そうとい

う運動が起こり、地域の商店主・駅・警察・

区が「環境浄化委員会」を作り、「新宿クリ

ーン作戦」なる追い出しを始めたのだ。

「街頭相談」の場で、福祉の職員が腕に巻

いている腕章には、「環境浄化対策会議」の

文字がはっきりと見える。「街頭相談」は最

初から、「人命保護」でも何でもなく、アオ

カンしている仲間を追い出すためにやられて

きたものであった。

その証拠として、明日の「街頭相談」では

警官六人がスタッフに入り、「パトロール班」

として、駅の巡回を行なうという。毎朝六尺

棒をもって仲間を叩き起こしにくる警官がや

る事と言えば、追い出しのパトロールぐらい

のものだ。警官は必要ないんじゃないか?

児玉経堂病院の医者も診察もおざなりだ。昨

年度四回の「相談」で入院できたのはたった

の十二人しかいなかったという。よっぽど体

が悪くなければ入院させるつもりもない。

昨年十二月の「街頭相談」では、「年末に

山谷に行けば泊まる所があるので、そっちに

行け」と言っていたという。福祉はどうして

も、新宿から仲間を追い出したいらしい。そ

して他の区に行けば、自分たちは知らぬ存ぜ

ぬで、そっぽを向いたままだ。

そんな新宿福祉の「街頭相談」の中でも、

二月一七日は画期的な事をやった。六十五歳

以上の仲間とその場で生活保護を適用したの

だ。こんな事は初めてだ。「人命保護」を大

きく掲げたあまり、高齢の仲間をたった二週

間で駅に戻すことが出来なかったからだ。

明日はアオカンする労働者の声で、「環境

浄化の街頭相談」を、徹底的に締め上げてや

り、高齢・病気の仲間の保護を勝ち取ろう!

昨年度4回の「街頭相談」では、のべ337人が相談し、入院したのは12人。残りの325人は「カッパラどん」でおしまいだ。

<昨年度「街頭相談」の実績>

街頭相談 実施日時	相談者数	医者におまわした人	入院	ドヤ・寮 入所	カッパラどんで 帰ってきた人
93年7月22日 10時~2時	30人	8人	2人	0人	28人
10月14日 14時~19時	62人	14人	3人	0	59人
12月16日 14時~19時	157人	22人	5人	0	152人
94年1月20日 10時~2時	88人	14人	2人	0	86人

2月17日「臨時街頭相談」(11時~16時)

相談者数	大田寮入所	医者におまわした人	入院	児玉経堂病院-2人 長沙病院-1人 都立府中病院-1人(救急車)
180人	118人	23人	4	

「街頭相談」の要求書をもつて福祉へのり込もう☆

- ① 高令の仲間に生活保護をだせ
- ② 病気の仲間には、ふいふいな診察を行い、要入院の仲間は病院へ、通院が必要な仲間はドヤ、宿泊所へ入れろ!
- ③ 「実態調査」になる身元調査などの面接をやるな! カッパラどんよりもっと未だなものを食わせる!

新宿福祉めど、まだ止らなかつた

「出張相談」ならぬ「出張」 20、50人の中野区に「出張相談」

仲問たち！ きんのうマサ、田口地下・スバルビルまえでおこなわれた新宿福祉による「現地出張相談」に、50人の仲問でおしかけたぞ！

今回の「出張相談」は、東京都による仲問のたたきだしと一体のものとしてすすめられた。あの2月17日の「臨時相談」以来、ちかづきのぶりのもみだつた。新宿の仲問なら、2月17日をやすめることはできないはずだ。「出張相談」のまえに、2月17日、都とワルんでおいたちを田口地下からおいだしたことに「いややまい！」とどうせやまのなら、あたりまえの生活保護をだせ！ うどん、カンパンだけでゴマかすな！」「それができなければ、出張相談なんてやめちまえ！」 仲問たちの怒りはまっとうだ。きのう朝はやくから、新宿

区役所まえで、管理課の仲問をモ／とモセず、おれたちは仲問たちとともに抗議のビラまきをやりぬいた。その「新宿福祉」に「いんで、二んごは仲問たちの声をおつめた「提案書」提出行動だ。マサから「出張相談」本番では、福祉課長・武山をひきずりだし、金で怒りをたたきつけた結果、「来週金曜日（7月29日）、おなたがたの要約書に対し、新宿福祉として回答します」と約束させることができた。

仲問たち！ ちっほけけがらち、これもまた成果だ、とおれたちはおもう。武山との約束をきっかけに、新宿福祉を徐々においつめていこう！ izzでもあたりまえの生活保護をだすよう、新宿福祉をかえちやろう！ 一教団結してガンバロー！

94年7月21日

台学働者福祉会館・人民／＼／＼／＼

東京都台東区日本堤1-25-11 TEL03(3876)7073 / (3872)7109

あしたも
新宿福祉行動会
おのり半、
目の像に
集合

新宿福祉は2・17一斉叩き出しの責任を取れ！ 「街頭相談」の前に俺たちに謝罪しろ！

新宿福祉は野宿労働者叩き出しの先兵となるな！

すべての皆さん！

私たちは、東京都、新宿区の野宿労働者叩き出しに抗し、新宿で野宿する労働者と共に、抗議行動を展開している団体です。

去る、七月十二日には、百五十名もの仲間の結集で、東京都に対して、野宿労働者の生活・就労保障を求めるデモをやり抜きました。何故、野宿労働者は厳しい生活の中、このように、自ら、たたかいに立ち上がっているのでしょうか？

新宿駅周辺だけで六百名もの野宿をせざるを得ない労働者に対し、東京都、新宿区は、「環境浄化」とか「環境整備」とか人命より環境の方が大事と言わんばかりの叩き出しを繰り返し、野宿している労働者をまたたくの「ゴミ」扱いにし、新宿の街からただただ追い出すことに躍起となっているからこそ、彼等は生きる権利を求めてたたかいに立ち上がっているのです。彼等が何故野宿せざるを得なくなったかのその背景や責任（この国のシステムの）をめぐり出すことなく「臭いものにはフタ」と、人命尊重のかけらもなく追い出しを繰り返す行政。住む場所すら一方的に奪い、路上での野たれ死にを強制することで、「いらなくなった労働力」を大量に「処分」しようとする行政。この「殺人行政」に対して「黙って野たれ死ぬな！」と野宿労働者は社会の底辺から、ついにたたかあがったのです。

しかし、私たちのたたかいをあざ笑うかのように、新宿福祉は七月二十日、アリのバイ的な「街頭相談」を強行しようとしています。「住所不定者に対して現地出張相談をし、要保護者は病院、簡易宿泊所に収容する」とあるこの「街頭相談」の実態は何か？「新宿駅周辺環境浄化対策会議」の一環として、新宿駅を「きれいにすること」に重きをおいた「相談」であり、叩き出しを隠蔽するために行なわれる、福祉のアリバイ工作でしょうかありません。その実態は、去る二月十七日東京都の一斉叩き出し作戦の際、新宿福祉が「街頭相談」で、そのお先棒を担いだことでも明白です。

新宿福祉が野宿労働者になにをしてきたのか？彼等がまたともに仕事をしていさえすれば、今の様な事態にはなりはしなかった。切り捨てと選別、野宿させながら通院させる。「野宿をもっとして体がガタガタになってから来い！そうすれば病院ぐらい入れてやる」端的に言って、これが、新宿福祉の、今現在、やっている全てです。

福祉が福祉の機能を果たさず、人殺しの先兵となる。こんな恐ろしいことが、この国の中心部で平然と行なわれているのです。

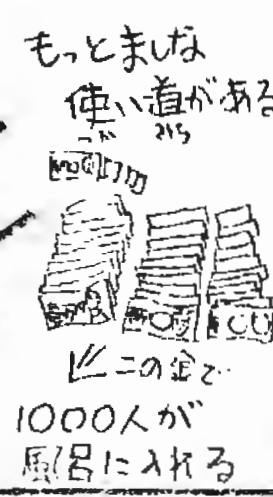
私たちはアリのバイのために行なわれる「街頭相談」を許しはしません。福祉に抗議し、その悪行を監視して行きましょう。「街頭相談」は二十日午後五時から西口スバルビル（地下）で行なわれます。ともにたたかきましょう！

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班

台東区日本堤1-25-11
☎ 03(3876)7073
郵便振替口座 00140-5-715883

20日のあのどーしようもない「街頭相談」の費用が

なんと? 36万7000円だと
なんじ (職員の残業代をのぞく)



新宿福祉よ そりゃないぜ

す 本 (29日) 課長武山から再度の回答がでる
自分の耳でたしかめよう
あさ9時30分
新宿9日1へ

新宿の仲間たち!

先週の水曜日(20日)の新宿福祉「街頭相

談」押しかけ行動に続き、明日は大挙して福

社事務所への追及をやりきろう!

おれたちは、新宿闘う仲間の会、「いのけ

ん」と合同で、「街頭相談」に先だつて「要

求書」を新宿福祉に叩きつけてきた。

その結果、「警察官同行のパトロール」と

「警察官の配備」をやめさせ、さらに「環境

浄化対策現地出張相談所」なる看板を捨てさ

せ、他の看板に変えさせた。これは、要求行

動の一つの大きな成果だ。

だが、まだ大きな要求項目が五つ残ってい

る。当日は「できない」の一点張りだったが、

さらに検討させ、明日の金曜日(29日)に再

度の回答を受けることになった。

皆なで新宿福祉に向き、自分の耳で課長

・武山の回答を確かめよう!

未だ未解決の要求項目は次の五点だ!

一、六十五歳以上の仲間には、その場で生活保護を適用しろ! 病気の無い仲間には、居宅保護を出せ!

二、病気を訴える仲間には、適切・丁寧な診察を受けさせろ! 通院が必要な仲間には、居

宅場所を保障し、本人が希望する病院に通わせろ! アオカンしながら病院に通わずな!

三、相談は親切丁寧に行なえ! 差別的対応や横柄な態度を改めろ! ケースワーカーの対応

の違い、バラツキをなくせ!

四、必要な栄養価のある食事を提供しろ! 必要に応じて衣類・風呂券を支給しろ!

五、福祉事務所での相談資料や個人のプライバシーを東京都や警察に提出するな! 「実態調査」に協力するな!

これらの要求項目の一つ一つに、具体的に

答えてもらおう! 要求を通す力は、新宿の仲

間自身の行動にこそある。一人でも多くの仲

間が、明日の福祉行動に参加しよう!

94.7.29

山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区 日本堤 1-25-11
☎ 3876-7073

7月20日「街頭相談」の相談者は、あずかさんだった

新宿福祉はよれたたちの声を聞き

もっとまじなことをやれ／やれ／やれ



二〇日の「街頭相談」の実施結果が公表された。相談者数は三十五人、そのうち医者に診察してもらった仲間は九人、うち入院した仲間は二人、たったこれだけの「成果」しかなかったという。課長は言う―「従来通りにやったのに、病状を訴えた人が九人しかいなかったのは、どうしてなのか心配している」

新宿福祉はまだわかっていないらしい。

二月十七日の東京都とグルになってやった駅からの叩き出しと大田寮への収容。これへの謝罪もなくて、「街頭相談」になんか行ける訳がない。

そもそも、実施する日時を前もって仲間に伝える。伝えない。「パトロール」をやったってろくに声もかけない、駅の構内しか回らない。相談に行った所で、入院する以外は泊まる場所すら準備していない。提供するのにはカップうどんだけ。何のために「街頭相談」をやっているのかわからん、みんなこんな気持ちで一

杯はずだ。「もっと俺たちの声を聞け！どうせやるなら、俺たちのためになることをやってくれ！」―これは当然の声だ。さらに驚くことに、当日「街頭相談」にかかった費用は、職員の残業代を除いて、三十六万七千円にもものぼるといふ。自動車・机、

都区内 やられたらやりかえすはもちろんだけど やられる前に攻めてやろう

東京都の追い出しに反対するところから出た闘いは、都・区を土俵きわまで追い詰めている。十二日のデモは、社会に大きくアピールし、支持と共感はますます大きく広がっている。東京都もへたに手出しは出来ない

と、業を煮やしている状態だろう。この夏から秋に向け、都・区を土俵の外に押し出してしまおう。追い出しに反対する運動から、要求を掲げた労働者の実力行動で、成果を勝ち取る闘いに本格的に着手しよう！

テントのリースで莫大な金が飛んだ。

三十六万円で千人が風呂に入れる。その金でシャツやパンツだって大量に支給出来たはずだ。その方がよっぽど仲間のためになった。もっとまじな使い道があるじゃないか。

新宿福祉のデタラメな税金のムダ使いをやめさせ、俺たちの要求にそった事をやってもらおう！今までのような「街頭相談」なら、以後一切お断りだ！みんなの行動と声で、福祉の政策を根っこから改めさせよう！

「都・区は生活と就労保障を行なえ！」このスローガンを具体的に要求としてまとめている。それには、仲間一人一人の「声」が必要不可欠だ。「自分はこれを要求する、こうしてもらいたい」そんな仲間の声で、仲間自身の「要求書」を作っていこう！

川崎では、行政との闘いで「パン券」の支給を勝ちとった。新宿の仲間の力を集めれば、もっと大きな成果をもぎ取ることが出来る。行政に仲間の底力を見せつけてやろう！

福祉は今以上何も出来んがマンしろ」ぞん 武山よ「回答じゃ納得せん」

夏から秋にかけて新宿区・東京都
に對し、もっとドネカイをすすむ

新宿の仲間たち！
先週の金曜日、新宿福祉事務所の課長・武山は、20の日に俺たちが出した要求書に對する回答を行なった。

俺たちの要求は、①65才以上の高齢の仲間には、病気のあるなしにかかわらず、生活保護を出せ②オアカン通院を止めさせる③相談員の横柄な対応を改める④まともなメシを出せ、衣類、風呂券を出せ⑤都が行なっている「実態調査」に手をかすな。という当たり前の要求だった。

が、武山の回答はカンパンの支給を3つに増やした。面接などに行く時の交通費の貸し付けを今度から片道から往復にする。この2点の改善を約束するだけであと残りの問題、とりわけ、俺たちの生活がかかっている①②④の問題に關しては「努力をしたいが、今の時点では現状のまま」と繰り返すだけだ。

「ふさげるな！こんなのは回答じゃない！」

集まった50名の仲間は、口々に俺たちの現実を明らかにしながら、居直る武山を追及した。

「施設がない、ドヤがない」なんてのは、行政の都合だ。しかも、自分らで施設を作ろうと努力もしないで、東京都にまかつせきりにしておきながら、行政の勝手な都合を押しつけるとは何ごとだ。「限られた予算だ」とか言うが、「街頭相談」で36万もの無駄金を使っておいて、何が限られた予算だ。無駄金を使わなければ、今すぐにでも、風呂券や、食券を発行できるじゃないか。

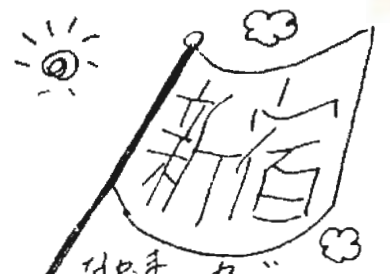
俺たちの具体的な追及に、武山は、一言も反論できない。ただ「皆さんの現状と訴えは分かるが、出来ることと出来ないことがある」と居直るだけだ。

武山よ、新宿区よ、俺たちの怒りは、そんな詭弁でごまかさねやしないぞ。これからは、徹底的にお前らを追及してやる。

仲間達！怒りの声を大胆にあげよう！

新宿の会
新宿西口地下通路B21 (94.8.4)
山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1 25 11 ☎ 03 3876 7073

明日も福祉に
押しかけるぞ
あし9時半新宿の目



仲間の会は
頑張るゾ!
8月14日(日)
は
炊き出し
だ

仲間の力を
もっと
強め
夏から秋
の
米ハ!

新宿闘う仲間の会から

このピラと一緒に、仲間の会の「会則」というのを配っている。仲間の会の会議で決まった「会則」だ。仲間の会が結成されてから、まだ、1と月足らずしかたっていない。この間、いろんな事があったけど、仲間の会は、新宿で野宿しているすべての仲間と共に、これから闘って行きたい。仲間の会は、限られたグループじゃなくて、新宿で野宿している仲間すべての団体にしていきたい。そういう意味を込めて「会則」を作った。

是非、読んでほしい。そして、俺たちの闘いに賛成する仲間は、是非、仲間の会に入っ

て、一緒に闘ってほしい。
仲間の会の会議は、毎週火曜日、夜、7時から、西口地下、東京都インフォメーションセンター前広場でやっています。
そして、金曜日を除く毎日、午後2時45分

にB21に結集してから、カンパ活動を

行なっています。カンパは、俺たちの闘いを一般市民に理解して支援してもらえよう、そして、闘いのための闘争資金を集めるために行なっています。毎日じゃなくてもいいから、是非参加してもらいたい。一緒に何かをやるなかで、仲間同士のつながりを作っていこう!

そして、14日(日)、午後5時から仲間の会の「炊き出し」を行ないます。カンパで集めたお金もこうして、仲間のために使ってきたい。仲間による、仲間自身の手による、「炊き出し」を是非成功させていきましょう。

ただ、食うだけじゃおもしろくない。午後1時から、材料を切ったり、準備をしたりと、みんなで協力しあいながらやる。炊き出しの後には、みんなで集まり、ざっくばらんに話しをしましょう。場所は、インフォメーションセンター前広場で。仲間の力で、このクソ暑い夏を乗り切ろう!

山谷人パト班から

仲間達!夏から秋に向けて、俺たちの闘いをドンドン強めて行こう!働きたくても、仕事が無い、福祉にかかりたくても、切り捨てられる。そして、東京都と新宿区は、俺たちを叩きだそうとしている。こんな状態で、どうして、冬を向かえられようか。おれ達は団結して、東京都、新宿区に「生活と仕事を保障しろ」と今まで以上の取り組みを開始して

いきたいと思っている。黙っていたら、行政に好き勝手にされるだけだ。やられる前にやりかえして行こう!この新たな闘いに入るため、俺たちは全力で準備にかかっている。9月10日が正念場だ。隊列を整え、共に、新宿区から、東京都に攻め登ろう!

その初戦の取り組みとして来週の12日(金)山谷の仲間と共に「仕事を出せ」と、都庁に押しかけたいと思っている。まずは、俺たちの声を都庁に叩きつけていこう!

8月12日(金)
山谷の仲間
都庁へ
おかけ
よう!
仕事を出せ

都と区はおれたちに仕事をもちてこい あす(8/2)と共に都労働経済局 に押しかけた毎週9時30分新宿の目集

「新宿野宿労働者の生活と就労保障を求める連絡会議」発足 秋の闘いにむけ街頭署名に力を集めよう！

新宿の仲間たち！

昨日の十日、新宿闘う仲間の会と山谷・人
パト班、そして「いのけん」の三団体が呼び
かけとなり、「新宿野宿労働者の生活・就労
保障を求める連絡会議」を結成した。

そして明日(八月十二日)は、久々に都庁
に乗り込もう！「おれたちに仕事をもちてこ
い！」この要求を掲げて、都庁・労働経済局
に大挙して押しかけるぞ！

この新宿でアオカンする仲間たちの多くが
「仕事さえあれば、何とかなるのにな」そ
んな気持ちで一杯だろう。しかしすでに不況
に入って四年になり、一向に仕事が出る気配
すら感じられない。東京都も新宿区も、おれ
たちの就労保障など考えもせず、今までひ
たすら「叩き出し」に奔走してきた。本来な
らば、東京都は率先しておれたちの就労保障
に向けた施策を行なうべきなんだ。

都・労働経済局とは、国で言えば労働省に
当たる部分で、都の労働部門を取り仕切る位

置を持っている。労働経済局が、「日雇労働
者就労対策」として実施しているのは、山谷
の職安で「特出し」という、清掃や草狩りの
作業の仕事を出していることぐらいだ。

山谷だってそれで事足りているわけじゃな
い。白手帳がなきゃ仕事も取れないし、仕事
に行けるのも十日にいったん位のものだ。

その労働経済局が、去る七月十五日に、二
十三区に対して、「一区の発注する公共工事に
日雇労働者を積極的に雇用するよう」に要請
したという。ただ、今年が無理なら来年でも
という気の長い話もしているらしい。

来年までなんか待つてられない。それまで
アオカンしていろと言うのか。酷しい冬が待
っているじゃないか。「仕事が無いという現
実は、山谷の仲間も同じだ。明日は山谷から
も仲間が新宿に出てきて、新宿の仲間と共に
都庁に乗り込もう！山谷と固く結合して、明
日、労働経済局に突撃だ！都は、直ちにおれ
たちの就労保障を行なえ！」

新宿闘う仲間の会
新宿西口地下通路B21 (94.8.11) 15時
山谷労働者福祉会館・人民パトロール班
台東区日本堤1-25-11 電話 03-3876-7073

8月14日(日)
夕方5時～
「叩き出し」
インフォメーション
センター前

新宿の仲間

今度の日曜日(8/14)夕方から西口地下 インフォメーションセンター前で 炊き出しと交流会をやるぞ



暑さももう少しで終りに近づきましたね。

おれたち仲間の会では、今度の日曜日(14

日)に、野宿労働者&日雇労働者の皆さんに

楽しんでもらうために、炊き出しと夏祭りを

インフォメーションの前で行ないます。

飲みものや食べものを用意しています。

お友だちとか、近くの方もさそってあげて

下さいね。ぜひ、参加して下さい。

お待ちしております。ビールもでますよ。

それからちょっとお知らせがあります。

この間、新宿闘う仲間の会では、新宿福祉

にさまざまな要求をしてきました。その中で

八月五日(金)に押しかけを行った際、福祉

のほうから、「新宿の仲間たちに渡してくだ

さい」と、Tシャツ・ワイシャツ・ズボン・

タオル・くつ下・歯みがきセットなどそれぞ

れ30着くらいが手渡されました。

これは紛れもなく、新宿で闘ってきた仲間

夏から秋の都区への総合要求闘争に向け、

一人でも多くの仲間の参加が何よりも力にな

ります。みんなの力でわたしたちの要求を実

現じていきましょう。

なお福祉から支給された衣類などはまだ半

数ほど残っています。必要な人は仲間の会の

メンバーまで遠慮なく取りに来てください。

(体の具合の悪い人には持っています)

私生活就労保障をかちとる闘いには準備が アンケート活動に協力を

『新宿野宿労働者の生活・就労保障を求め

る連絡会議』——ちよつと長い名前だけど、

この夏から秋に向けて、新宿区へ総合的な要

求を掲げ、闘いをつくっていく母体として結

成された団体だ。

やられる前にやつつけてやろう!そうは言

っても、少々の準備が必要だ。準備の第①は

新宿で野宿する仲間の声を集めて、仲間自身

の『要求書』を作っていくこと、第②は今ま

で以上の広い支援網を作っていくことだ。

このために、仲間の会を中心に、アンケート

ト活動をやっていく。六百人以上のアオカン

する全ての仲間たちに声を掛けていくことに

なるだろう。アンケート結果をまとめ、要求

書に声を盛り込んでいく予定だ。ぜひ協力し

て欲しい。

さらに、今やっている街頭カンパ活動に、

署名活動を加えていく。これで支援してくれ

る人達を増やしていこうという計画だ。

どちらも、新宿の仲間の協力がなくては出

来ないことだ。一人一人の声と力を結集して

秋の新宿区に責め登る闘いを開始しよう!

不況で急増

さらに猛暑

「食事、週3日だけ」

傷む残飯、争奪に拍車

猛暑が続いているが、東京は「スワルト」の暑さの中で、ホームレスの人々が「暑い」と叫んでいる。飲食店から出る残飯を争奪する者も出てきている。不況で急増したホームレスの増加が、新たな社会問題として浮き彫りになってきた。...

「東京のホームレスは約10万人と推定されている。そのうち約3万人が、東京都心の地下道や公園などで生活している。猛暑が続く中、残飯争奪の争奪戦が激化している。...

「残飯争奪」は、ホームレスの生存戦略の一つである。しかし、衛生面から見て、残飯を摂取することは健康に有害である。また、争奪による争いも頻りに起きている。...

「残飯争奪」は、ホームレスの生存戦略の一つである。しかし、衛生面から見て、残飯を摂取することは健康に有害である。また、争奪による争いも頻りに起きている。...

ホームレス 散々な夏



宗教グループが毎週水、金曜日の2回実施する給食サービスは毎回100人近いホームレスが列をつくる(13日午後6時、新宿区西口地下道で)

「残飯争奪」は、ホームレスの生存戦略の一つである。しかし、衛生面から見て、残飯を摂取することは健康に有害である。また、争奪による争いも頻りに起きている。...



「残飯争奪」は、ホームレスの生存戦略の一つである。しかし、衛生面から見て、残飯を摂取することは健康に有害である。また、争奪による争いも頻りに起きている。...

7/14 東京

追いつかぬ医療対策 断続的ホームレス

「東京・西新宿の地下道を中心とするホームレスの断続的増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。...

「断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。...

ニュースの速報・話題の発端 03(3471)7246

長い路上生活で健康悪化、119番通報が急増

「昨年、断続的に発生したホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。...



救急車が心配されるホームレス断続的増加

「断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。...

受け入れ病院なく区外搬送も

「断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。断続的に発生するホームレスの増加が、医療対策を追い越している。...

部 ニュースの追跡